履いてください、鷹峰さん
haite kudasai takamine san
1
柊裕一
Yuichi Hiiragi


DL-Raw.Net

履いてください、
鷹峰さん
Please
put on,
Takamine
san
柊 裕一
Yuichi Hiiragi
1

Contents

鷹峰高嶺は
この学園の神である
学業・運動共にトップ
1学期期末考査
上位者順位表
1位
鷹峰 高嶺
2位
さらに一年生時から生徒会長に就任する等カリスマ性も併せ持つ
スクールカーストで表すなら頂点を超えた埒外の存在
神なのだ
JOCKS
TARGET

第1話 私のクローゼットになりなさい。

一方僕は
白田孝志は——
あ わりー 白田机借りてたわ
使う?
あ いや いいよ大丈夫…
勉強も運動も下の下…
友達もおらず
存在感は皆無——
机も有効活用された方が幸せだ
比べるのもおこがましいが
会長とは
月と鼈
提灯に釣り鐘…

唯一の接点と言えば
小中高と同じ学校
だということ
と言っても 昔から会長は
神童で 不出来な僕とは
特別これと言った交流も
無かった
僕からしたら
会長は雲の上の存在すぎて
仲良くなりたいとか
ましてそれ以上の関係に
なりたいとか
いつもの場所に
行こうかな…
そんなことは考えた
こともなかった
──この時までは

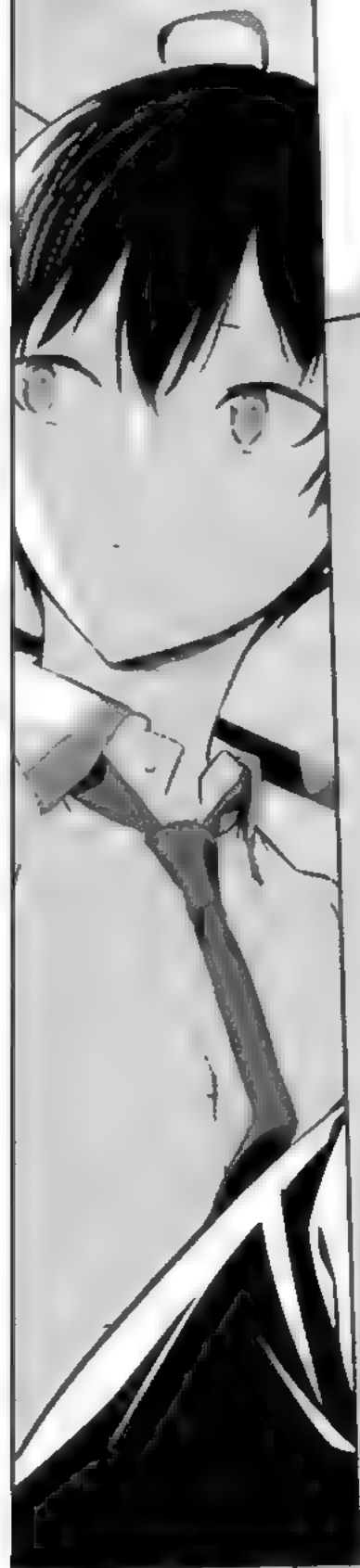
だから
こんな僕が
まさか
会長と――
特別な関係になるとは
この時は
想像すらしていなかった

事の起こりは――
昼休みをやり過ごすべく忍び込んだ体育用具室からだった
んん


カチャッ
ギッ
ドキッ
!!

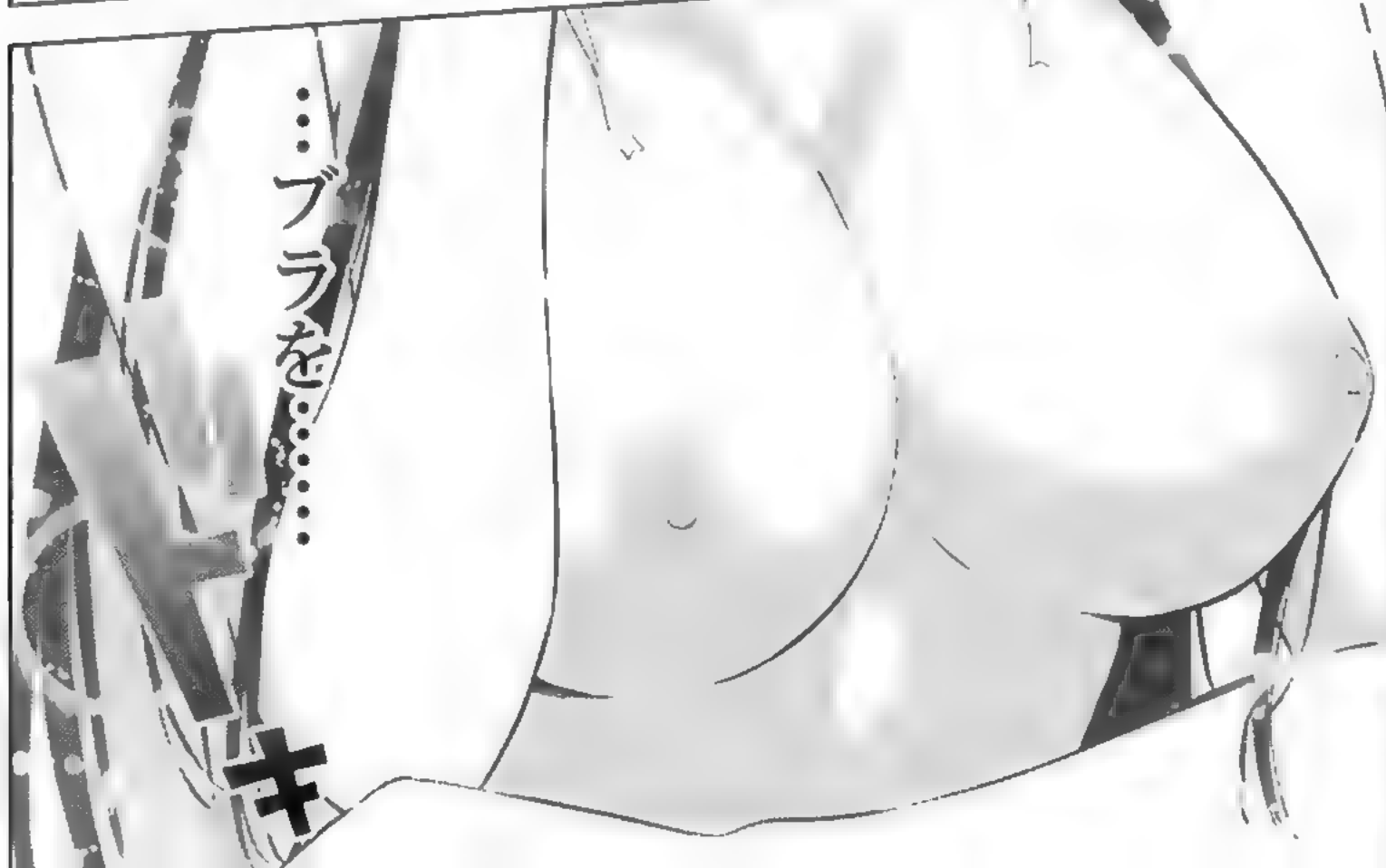
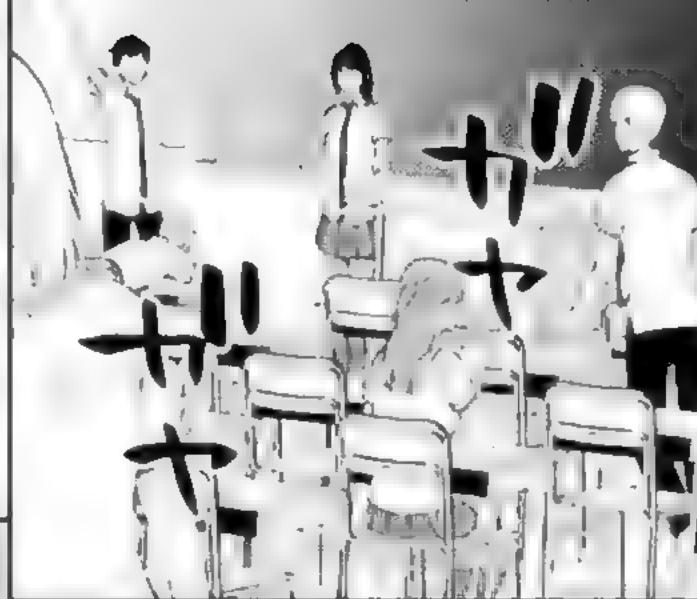

次の授業は…わぁー…数学のテスト返しか…
また赤点だろうな…
ドア…


だ誰だろ？授業以外立ち入り禁止のはずだけど…

って…会長…？
…何でこんなところに会長が…？
っ!?

い…いくら会長の着替えでも…!
学園一の美少女の着替えでも…!!
覗きなんて人としてダメだ…!
見ちゃダメ見ちゃダメ見ちゃダメ見ちゃダメ見ちゃ…
パサッ
ドキ…
ドキ…

み…みみ見ちゃった……!!

会長の…
校内一美人の…っおっぱい……っ!!

意志薄弱すぎるぞ僕――……!!

ガヤ
ガヤ
……
…でも…
なんで会長あんなところで
着替えを……？
ドキ…
ドキ…
それに…
ブラ…
着けてなかった…よな…
ドキ
ドキ
…ブラを……
ドキ

はい席着けー
テスト返すぞー
取りに来ーい
白田ー
テスト返しか…
忘れてた…
は はい…
お…
おおおおお!?
定期学力考査
数学Ⅰ
氏名
や…やった!!
こんな高得点初めて取った!!
何とか赤点
科目で済んだ——…!
次——…
と…珍しいな

鷹峰(たかみね)

98点(てん)だ

失礼ですが…
採点ミスということは？
ん？ああ…いや
残念だがそうではないようだ
……
まあ弘法も筆の——
そうですか
ガタ

え……

し……

尻ッ!? 会長のお尻っ!?
ややや柔らかそ……

いやっじゃなくてッ
教室の真ん中で……
なぜお尻を……!?

た――
白田!
ビクッ

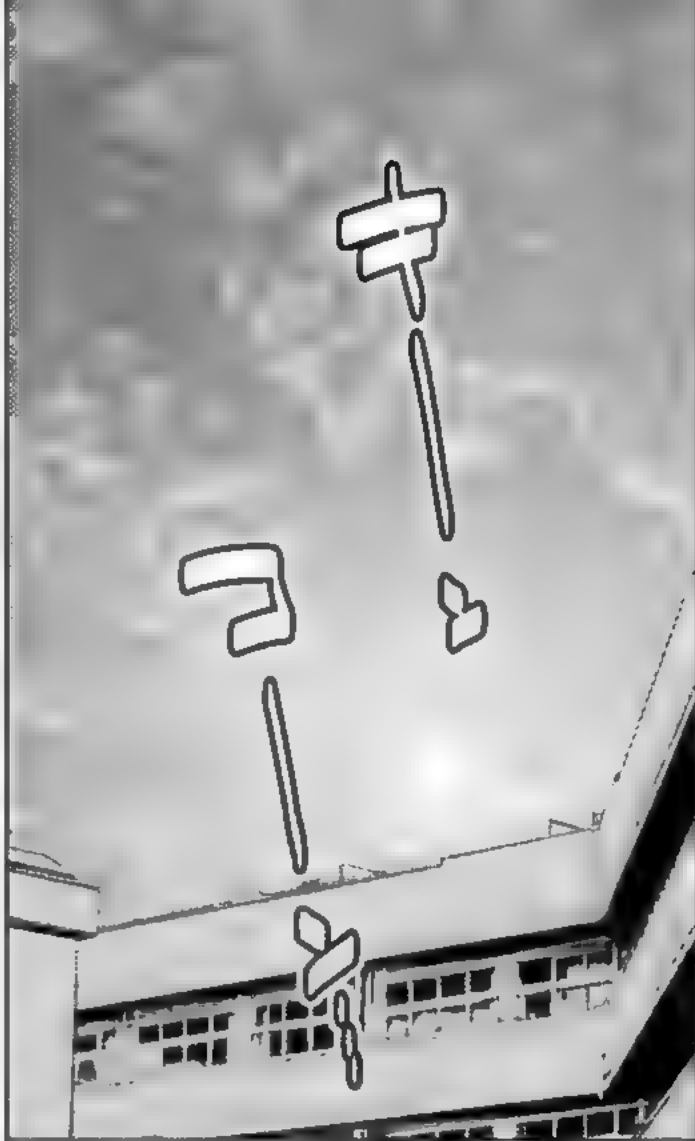

!? あ…あれ!? お尻……
テスト! 取りに来い!
え? テスト…? いやさっき… …あれ?


なんだ…? 寝ぼけてた… …のかな…
そりゃそうか…僕が 52点なんて高得点 取ったなんて夢に決まって…


定期学
数学
52

…夢じゃない…!?
何て言うんだっけ…
デジャヴ…!?
…てコトは…この後
会長が98点で…
次は
…と?
さすがだな
鷹峰
今回も満点だ
!?
な…
え……!?

やっぱり
おかしい…！

夢でもデジャヴでもない…
確かに会長は「98点」だった…！

触らぬ神に…
とはいうけど…
生徒会室
気になる…どうしても…！
ドキ
ドキ
コン
コン
——はい
ガラ

あら…白田君
何か御用？
ドキ…
…あ
ゴクッ
え…えと…
へ…
変なコト言ってるのはわかってるんだけど…
会長の…
数学のテストが
98点だったのを見た…気がして…
ピクッ

その話誰かに話したかしら?
え…あ
ドクッ
いや…誰にも…
そう…見られていたのね…
私としたことが気づかなかったわ…
コッ
コッ
あ い…いや見たっていうか…
先生が98点って言ったのを聞いただけで…

テストのことではないわ
見たんでしょう?
ドッ
私の胸を
体育用具室で…

き…気づかれてた…!?
ドク…
ドクッ
えッあ…いや…あれは…
……
まあいいわ
糾弾しても仕方がない
建設的な話にしましょう
スッ
適当に座って？
ドキ
えあっ…はい…
ドキ
飲み物は…ミネラルウォーターでいいかしら
な…何!? 建設的な話って…
罰の重さを決める…!?
奉仕活動とか…!?
まさか停学なんてコトは……
ドドドド
カァ
──あッ

わ〜〜っ
ごっ
ごめんっ!!
かからなかった!?
ガッ
ガッ

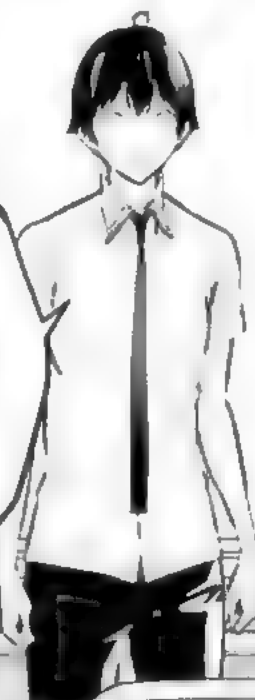
すッすぐ拭くからっ
何を慌てているの…糾弾はしないって…
…
いえ…良い機会だわ
…え？
よく見ていなさい
良い機会…
って
え…
なッなな何を……

…君
白田君
っ!?
あ…あれ…
気づいたかしら?
はい…はいすいませ……
ってあれっ!?何で濡れて…
ボタ…
何でも何もあなたが濡らしたんでしょう
え…っでも…あれ!?
ほらぼーっとしていないで拭いて頂戴…風邪をひいてしまうわ

特に胸に…
いっぱいかけたわね
重点的に
拭いて
ドキ…ドキ
ドドドド
えッ…あ…
はい…っ
ドキッ
か…か会長の…おっぱいを…っ
何だこれ…今日僕死ぬのか…!?
ところで
私の身体が
濡れている以外に
何か
気づかないかしら
えッな何!?
何が!?
水かけた以外に
他に僕
何か…!?
…

遅いわ
ほら…これよ
ええー!?
この感触ならわかるでしょう?
や…や…
ドドド
ほら早く気づいたことを言いなさい
やぁらかい…です……!

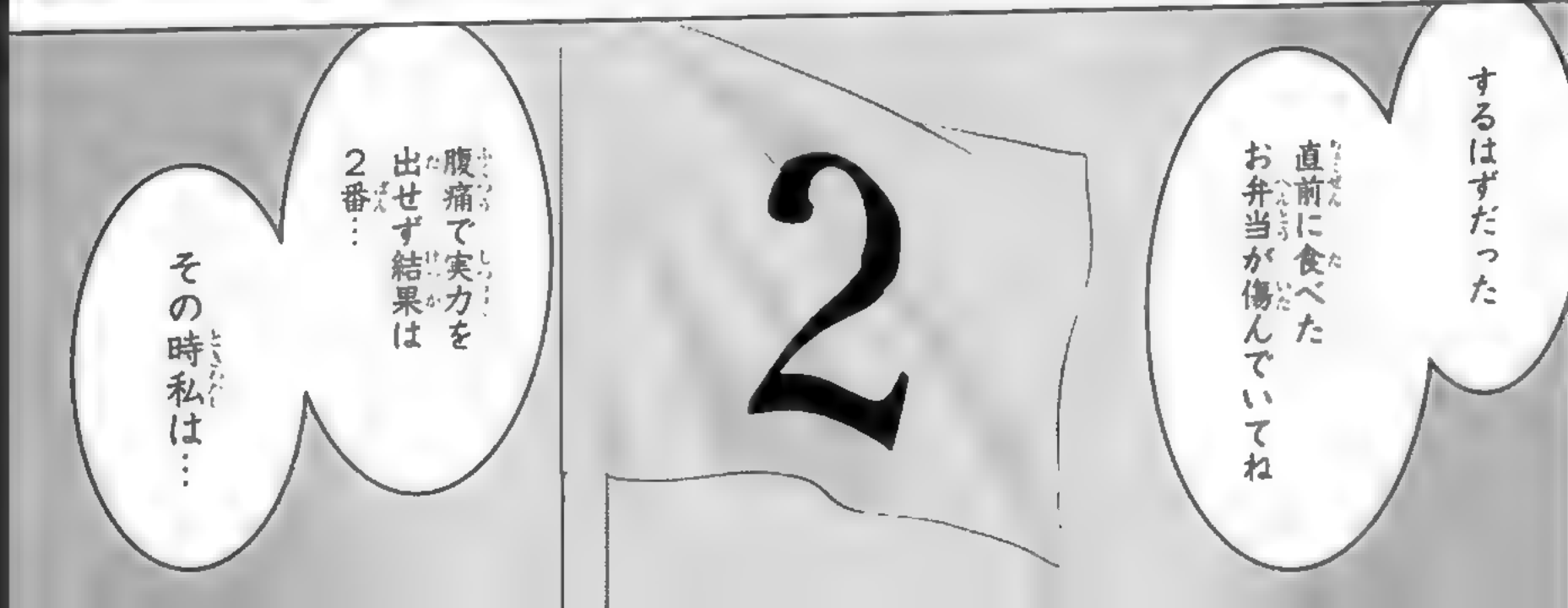
不正解
観察力ゼロね
ふぐッ!?
まあ…校内一の美少女の胸を揉んだのだから…
思考停止するのも無理ないのかしら…
え…か…会長…？
正解は…水に濡れていることに加えて…
さっきまで着けていたブラが消えている…ということよ
あ…あれ…？さっきまでて確かに…
なんで…？
え…
つまり
これが私の〝能力〟

〝未だ穢れ知らぬ乙女〟
下着を脱ぐと
した事をしなかった事にできるの
ブラを脱いだことで
水を避けなかったことにした
…は？ え？
能力…？
見せた通りよ

な…何を言って…
あの…意味が
白田君の言いたいことはわかるわ
・脱いだズラはどこへいったか
・なぜ自分だけ私のしたことを覚えているのか
の二点でしょう
え!? い…いやそこまで具体的な疑問は…
まず一点目
能力のために脱いだ服は…消滅してしまう
文字通り消えてしまうの
では次に…二点目の答え
それは…
ッ!?
ドキン
チラ
…?

シュル…
これよ
私の胸を生で見た者は…「あったこと」の記憶が残ってしまうの
納得できた?
たゆん
な…何も頭に入らないですー!!
わかっているわ次の疑問でしょう?
なぜ私がこんな能力を持っているのか…よね?
いッいやだからそんな具体的な疑問は——!

それは私が
は…
はい…!?
「1番」に相応しい
からよ
勉強・運動は
当然のこと学年
首位!
さらに生徒の
頂点である
生徒会長を務め…

加えてこの美しい容姿
均整の取れた身体…
当然1番のためなら努力は怠らないわ
あらゆる面で私は1番！…そうでしょう？
でもね…この私の努力と才能を以てしても
い…いや会長そろそろ胸を…!!
小さなミスは起きてしまうものなの
人生9割方ミスのような白田君には想像できないでしょうけど
えッ
ひ ひどい…
か…会長の話…半分も理解できない…会長ってこんなアレな人だったの…!?

この「能力」が発現したのは…まさにそんな瞬間…
それは小学5年生のとき―
回想始まった…!?
当時から私は
勉強・運動共に他を圧倒する1番優秀な生徒だった
その年の運動会のことよ…チーム対抗リレー
アンカーだった私は先頭走者を抜き1番でゴール…
するはずだった
直前に食べたお弁当が傷んでいてね
2
腹痛で実力を出せず結果は2番…
その時私は…

こんなことはあり得ない…!!
そんな屈辱感から失禁してしまったの
1
2
小5でおもらし…!!
小5にしてこの向上心の高さ…
神童よね
え!?そういう評価なの!?今の話…
そうして…汚した下着を脱ぐと…
もうわかったでしょう?
1
気づくと私は1番の旗を持っていた
パンツを脱いだことで「弁当を食べなかったこと」にしていたの

つまりこの「能力」は
1番であるに相応しい私が
常に1番であり続けるため…必然的に発現したのよ
わかったかしら？
い…いややっぱ全然わからないー!!
と言うか会長…アレな人とかのレベルじゃない…関わっちゃいけない人…!!
ところで…なぜ白田君のような凡人にこんな話をしてあげたと思う？
えっ!?な…何で…!?

「能力」を使うと
下着は消滅してしまう…
つまりその都度
着替えなければいけないし
替えの下着を
持ち歩かなければいけない
着替えを
覗かれるリスクも
伴うわ
誰かさんが
していたようにね?
う…っ
そ…それは…
そこで提案よ
私の
クローゼットになりなさい

常に私の下着を
持ち 付き従い
いつどこでも
着替えのサポートを
する
え…
「能力」を理解している
白田君にしか
務まらない仕事よ
どう？
良いアイデア
でしょう？
いや奴隷
でしょう
それ!?
僕に一切
メリット無いし！

メリット？
あるじゃない
ワンオブゼムで
存在価値の乏しいあなたが
私のクローゼットという
オンリーワンになれるのよ？
光栄でしょう？
善意で
言ってるんですか⁉
それ‼
っ…
付いていけない…
あの…
スイマセンっ
帰ります…！
もう何が何だか…
待ちなさい
それじゃあクローゼット
にはならないと言うの？
…
ピタッ

なりません!!
能力とか めちゃくちゃ 胡散臭いしっ
そもそも人に 何か頼む態度じゃ ないでしょう!?
…言い過ぎたかな…
…と とにかく… 僕はもう行きます
まッ
待って…
!? わっっ

…っ
てて…
だ
大丈夫？
会ちょ…
うわッ
ごごッ
ごめんなさいッ!!
すぐ
退きますッ
待って
ス

頼み方を間違えていたわ…

こうすべき…だったわね

きゃあああ――――ッ!!
え…え!?
ザワ
ザワ
今の声
生徒会室からだ
何な…

貴様アーッ!!
会長に何をしたー!?
取り押さえろ!
警察に連絡!
けッ
警察!?
ちょッかッ
会長ッ!!
皆に説明をーっ
…説明…
ですって…?

あなたが押し倒したんでしょう⁉
この…強姦魔!!
ええ——!?
まッ待って…
なんでそんなウソ!
パトカー来ました!
はい!A棟3階です!
ファン
ファン
なあああ——!?
いいや…なな何で会長…
こんなことを……!?
ドドドドド

……!!
は…嵌められた…!?
僕がクローゼットになるのを拒んだから…
その報復に…!?
ドッ
そんな…僕の人生
ザワ
ここですおまわりさん
ザワ
この生徒が会長…生徒に乱暴を!
ザワ
こんなことで終わる…!?

「無かったこと」にしたい…

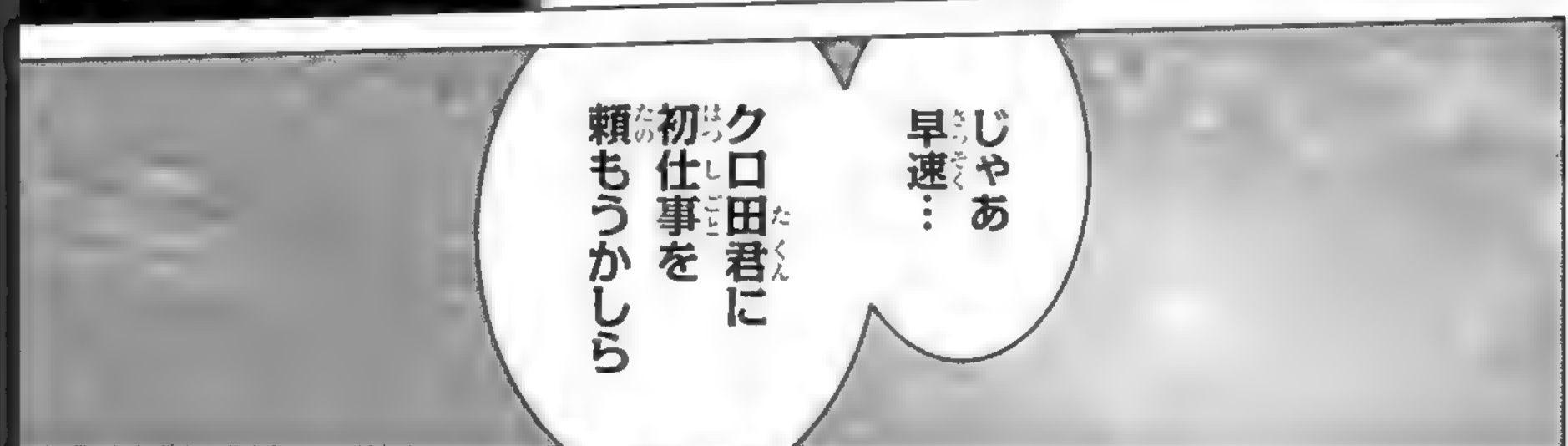
そう思わない…？

かっ会長ッ!!「能力」でッ
無かったことに…ッ
こらッ大人しくしろ!
あたッ
それは白田君の「頼み方」次第ね

私のクローゼットになる…と
それとも…
……
は…はい
誓うのか…
誓います…！

クローゼット君？
……
はい…
クロ田君？
…はい…
ふふっ
よろしい
しっかり立場を理解できているわね
…

こ…これから
どーなっちゃうんだ…
赤点に
一喜一憂していた
あの頃に戻りたい…
元気が
無いわね？
せっかく
性犯罪者に
なるのを
防いであげたのに
そもそも
会長のせい
でしょう!?
あら…主人に対して
その態度は
どうなのかしら
!!
その気になれば
いつでも
白田君を「助けなかった」
ことにできるのだけど…

すいませんでした!!
うんうんうん
じゃあ早速…
クロ田君に初仕事を頼もうかしら
パンツを履かせてちょうだい
…は
はい…っ!?

あなたを助けるために脱いでしまったから何も履いていないのよ…
ノーパンよ
そッそそそんなの自分で履けば…
あらもう忘れたのかしら?
ノーパンでは帰れないでしょう?
チラ…
っ!?
私の下着を携えて着替えを手伝う…
あなたは私のクローゼット…

下着は私の鞄に入っているわ…早く
…っ
ドキ…
カァ
ドキ…
さあ…
ドキン
ドキン
ドキン
ドキン
お願い
ドッ
ドッ

…あら

目を瞑っていたの？
可愛らしいのね？クロ田君
胸はしっかり見ていたのに？
うっ…そ…それは…っ
い…いやだって見えちゃうし…！
会長だってイヤでしょ見られたら…！

ご…ごめんっ!!

いけないとわかってたんだけど…その出来心で…

……

そういえば白田君

生徒会室に入ってからは 私の裸体を見ないよう努めていたわね?

本当は押し倒してこの身体を貪りつくしたいと思っていたのでしょうけど

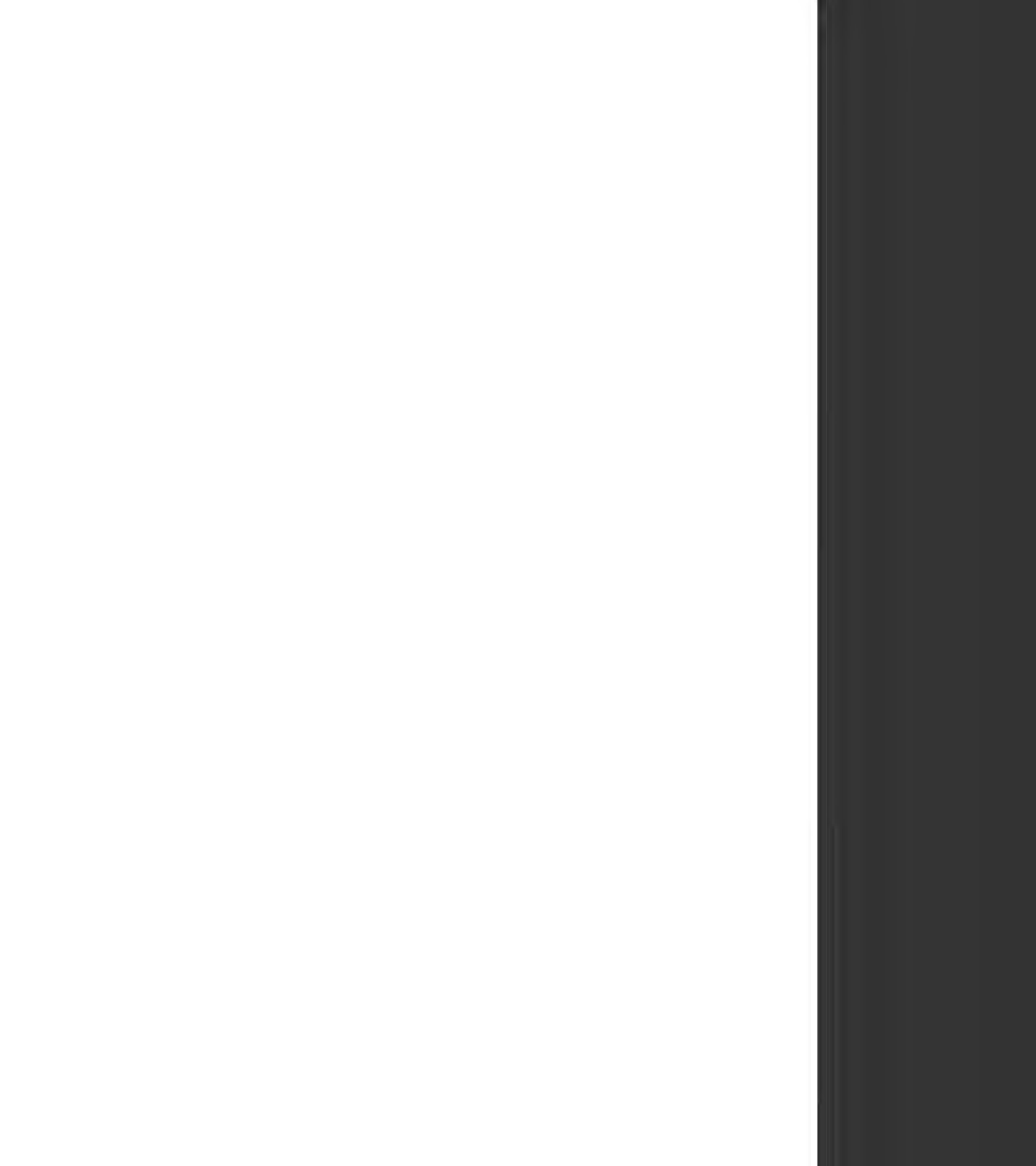
おお思ってないですよ!?

ふふ…でも…

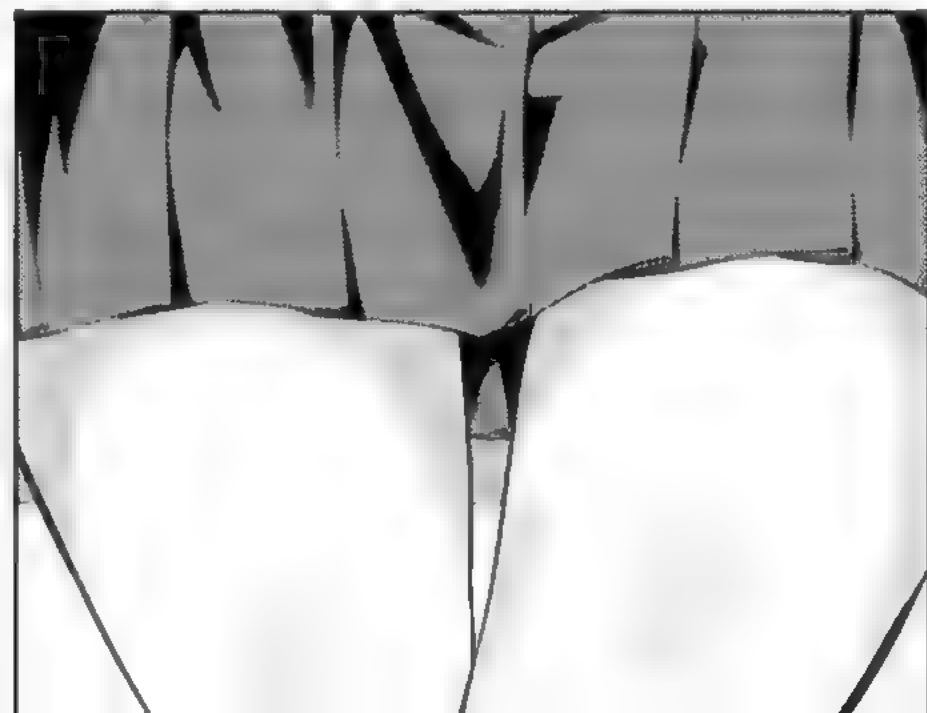
その律儀と言うか…そうね

紳士的…なところ
昔のままね
……？
ドキン
じゃあクロ田君次はブラを着けて欲しいのだけど…
目を瞑ったままやってみる？
ええ!?そっちもやるの…!?
スリスリ

履いてください、
鷹峰さん

Haitekudasai Takaminesan

全校生徒の憧れの的
生徒会長
鷹峰高嶺の秘密…
それは――
下着を脱ぐと
した事をしなかった事にできる能力…
『未だ穢れ知らぬ乙女』の持ち主で
あるということ――
第2話 満足するまでやり直させて。
そして…その秘密を
知ってしまった僕
白田孝志は…
会長にパンツを
履かせる
クローゼットとしての
生活を強いられる
こととなった――

クローゼットとしての
最初の一日……
何をやらされるんだろうか…
！
おはようございます
会長！
ドキッ
おはよう

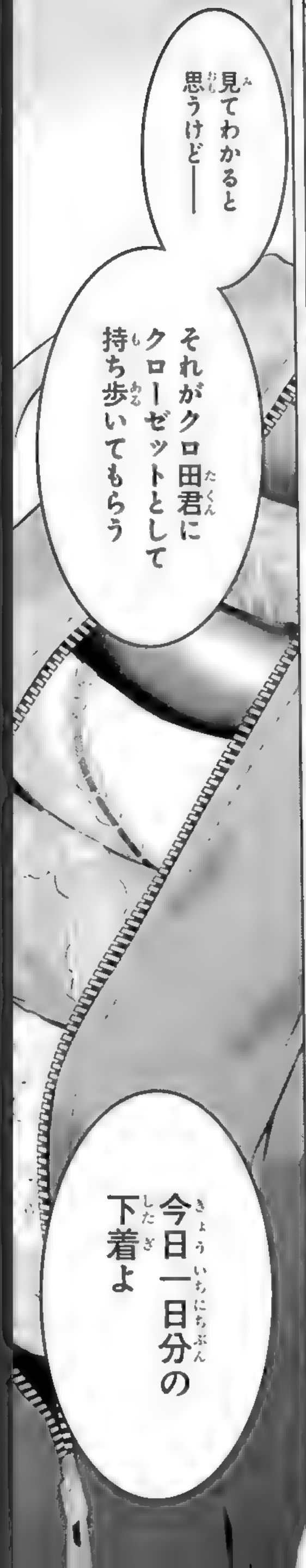
夢であったと……
いや……
悪夢であったと信じたい……
清廉で女神のような会長と――
昨日の――
蠱惑的で小悪魔的な会長が
同一人物だなんて――……

おはよう
白田君
ドキィ…
!!

お おはよ…
話があるわ
HRの前に――
生徒会室で。

おい…あいつ
会長から挨拶されたぞ!
羨ましい…!
アイツ確か同じ
クラスの…えーと…
鈴木だ鈴木!
ザワ
ザワ
ザワ
ヤ
かすってもないよ……
白田だよ白田…!

し
失礼します…
どうぞ
改めておはよう
クロ田君
ドキ
は…話っていうのは…?

そんなに硬くならないで
私達〝パートナー〟でしょう？
『クローゼットとその持ち主』という
そんな不平等なパートナー聞いたことないよ！

うわっ⁉
期待を裏切るようで悪いのだけど洗濯済みよ？
どんな期待してると思ったんですか⁉
見てわかると思うけど――
それがクロ田君にクローゼットとして持ち歩いてもらう
今日一日分の下着よ

あなたは
クローゼットとして
私がいつ何時
何度「未だ穢れ知らぬ乙女」を
使ってもいいよう一日中
肌身離さず携帯すること。
は
肌身離さず
って…
もし誰かに
見られでもしたら
それともう一つ
聞いてない…！

私が能力を使ったらすぐに下着を履かせに来ること。
え!?い…いや
たとえ授業中でも…
直ぐにね
そんな無茶な!
休み時間に人気の無い所で…とかならまだしも…
休み時間まで待っていたら一つの授業につき一度しか能力を使えないじゃない
能力を使いたい時に使う…そのためには適宜下着の補充が不可欠…

「脱ぎたいときに
脱ぐ」
私は瞬間的な
感性を大事に
しているの
じ 実演しないで
下さい!!
まあ嫌だと言うなら…
クロ田君を
助けなかったことに
するだけなのだけど
わ…わかって
ます!
努力
しますから…!
ふふ
よろしい
でも
──まあ…
脅しが無くても
?
白田君には
頑張ってほしいの
だけどね…

私だって——
自分の下着を人に見られるなんて…恥ずかしいのよ…？
でも…白田君なら…って——
あなたを信じて心を許してるんだから…
…っ
ドキッ
…って…
僕に見られたところで何とも思わないだけでしょう…!?
だまされないですよ…！

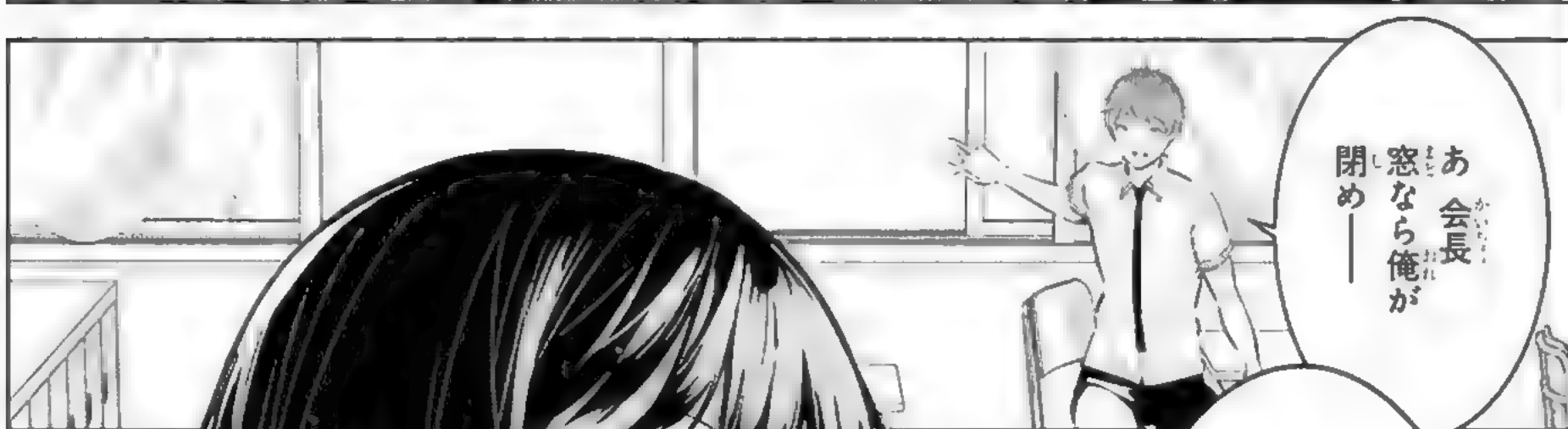
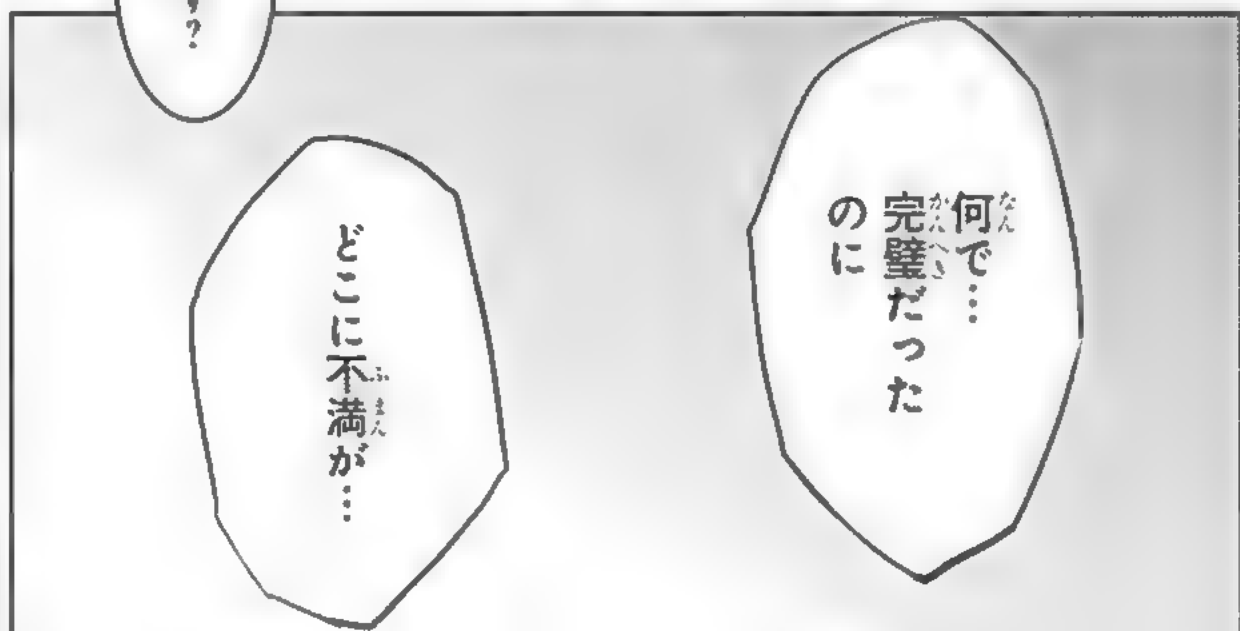
独占欲を煽ればいい様に踊るかと思ったのだけど…
失敗だったようね
ウ〜ム…
身も蓋も無いな!!
あ〜もう…
クス

…すぐに寝かせろって言うけど…
そもそもいつ能力を使うのか…

〝1番であり続けるために小さなミスを訂正する〟
…とか言ってたけど…

高等学校
古典B
世の中に
たえて桜の
なかりせば
春の心は
のどけからまし

はい
ありがとう
えーこの歌を
解釈する
なら――
さすが会長…
うまいな
ヒソ
相変わらず
良い声…
ヒソ
本当に上手い…
会長は完璧だ…
これならそうそう
能力を使うことは
ないんじゃないか…?
この世に桜が
存在しなければ
桜の散る様で
時の流れを感じることもなく
焦燥を感じることも
なかっただろう
…というもので
…と風が
強いな
窓を閉めて
くれるか
サァァァ…
!

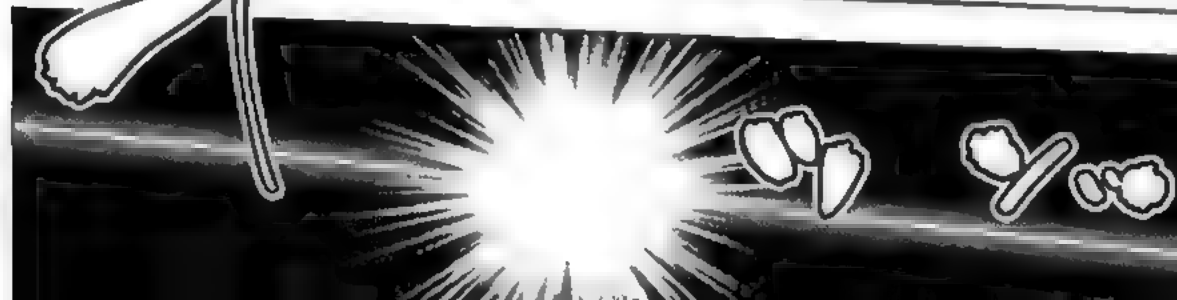
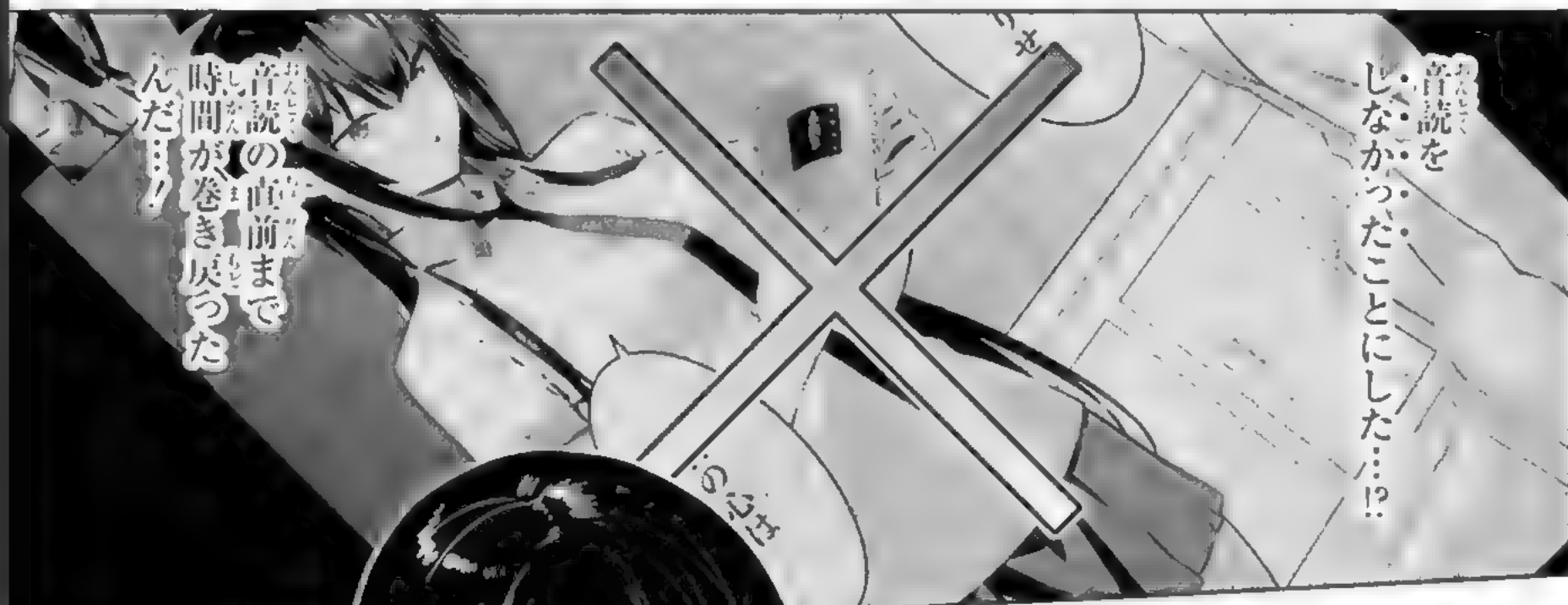
ガタッ
あ 会長
窓なら俺が
閉め――
やり直すわ

白田君
言った通り――
やり直したら
すぐに履かせに来て
ザワ
何？
な…
え…!?
ザワ
ザワ
やり直す？
何で…
完璧だった
のに
どこに不満が…

完璧であっても
〝未だ穢れ知らぬ乙女〟
1番ではないわ

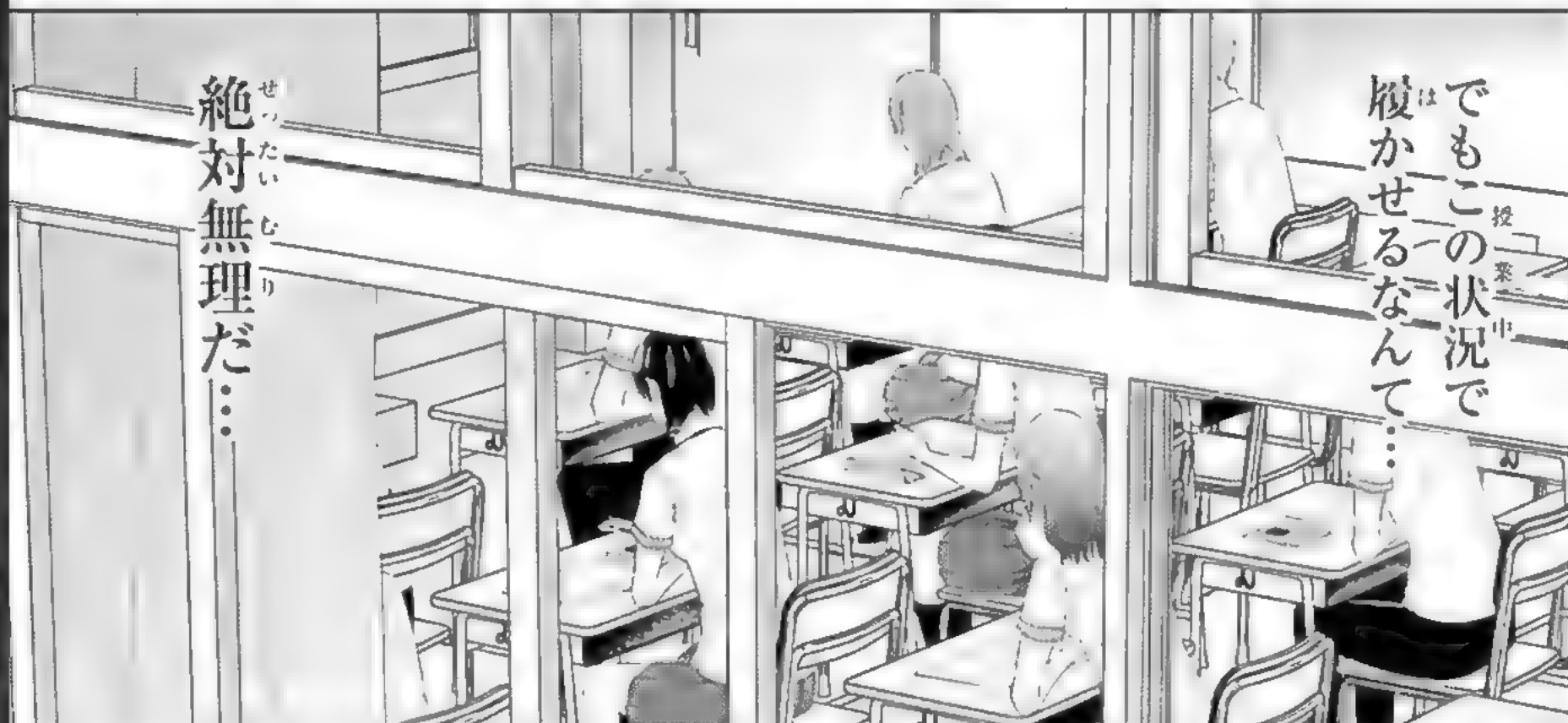
――では次の在原業平の歌を音読してもらおう
ガタ
鷹峰
はい
音読をしなかったことにした…!?
音読の直前まで時間が巻き戻ったんだ…!
コホッ
…ん…
――いえ
サァァァ
大丈夫か?具合が悪いなら他の者に――
?
大丈夫です…

世の中に
たえて桜の
なかりせば
古典B

春の心は
のどけからまし
パチ
パチ…
ワァ〜
パチパチパチ
パチパチパチ
パチ

い…いや どうだ! みたいな顔されても…!!

完璧であっても
1番ではないわ
そ そうか…
これが"完璧でも1番じゃない"
ってコトか…
…ん？このレベルでやり直すって…
これ今日一日であと何回能力を使うんだ…!?
…？
コロッ

は

――――!!
そ…そうだ忘れてた！
すぐにパ…下着を
履かせに来いって…

でもこの状況で
履かせるなんて…
授業中
絶対無理だ…

やっぱり…
休み時間まで待って
もらうしか…
ドギ
マギ…

ワス…

スス
っ!?!?
だ…ダメだよ会長!!
そんなコトしたら
見えて…!!
自覚無いの…!?
ドドド
ん
…!?

ん…

うわあ めくれてる!! めくれてます!!

ズル ズル

白田君
っ!!
消しゴム
落としたわよ
えっ…
消しゴム…?
…っ いや…僕のは
手元に…

消しゴムを拾うフリをして…パンツを…!?
そ…そんな無茶な!!
…でも…実行しなければ…「能力」でッ
無かったことに…ッ
こらッ大人しくしろ!
僕は……!!
あたッ

…やるしかない……！
戸惑って動かないでいた分だけ
拾いに行かない僕は不自然に思われる…
ドクン
ドクン
注目されればされるほど
皆に気付かれず履かせることは困難になる……
――なら――
ドクン
ドクン
すぐに行動するしかない――！

ドッ
ドッ
MOMO
ドッ
ドッ
MOMO

ス…
ドッドッドッ

ドキ
ドキ
ドッキ
ドキ

ガタ
ザッ
ガタッ
ガッ
や…やった…やった…!!
周りにも気付かれてない…!
……
やったぞ…!!

キーンコーン
よし 今日はそこまで
最後に前回提出してもらったワークを返却するから
名前を呼ばれたら取りに来なさい
はあぁ……
小林ー
よかった…無事終わった…!!
会長も満足してるといいんだけど…
ガヤ
ガヤ
ガヤ
はーい
…え…!?

し…しまっ…
焦って半端に
履かせちゃってた…⁉
会長…まさか
自分の状態に
気付いて
ない…⁉

あら…
困ったわね

…みたいな顔しないで下さいよ!!
気付いてる…絶対気付いてる!!
気付いてるのに直さない…って…僕に直しに来いってこと…!?

まさかこのまま…
ガヤ
相原ー
はい
ガヤ
名前が呼ばれたら…
ガヤ

そのまま
取りに
行くつもり
なのか――!?
そんなことになれば
清廉潔白なイメージが……!!
い…いやいや…さすがに
そんな破滅的な行動は…
しない…と思いたい…けど…
わからない!
会長は何をするか
読めない…!!
転ばぬ先の杖だ
何とかしないと……
何とか……

僕がそこまでする必要は――

私だって――
自分の下着を人に見られるなんて…恥ずかしいのよ…？
でも…白川君なら…って――
あなたを信じて心を許してるんだから…
え――
鷹峰――

ガタ
ははははいっ!!
はい――
ヤバ
おい白田(しろた)
いつから鷹峰(たかみね)に
なった――?
えッあ
すすいません
ねね 寝(ね)ボケ
てて…
しっかり
しろよー?
ここまで来(き)たんだ
鷹峰(たかみね)にワーク
持(も)って行(い)ってやれ
はは
はい

あら…
ありがとう
白田君
い いや…
別に…
僕…何でこんな
ことを…
じゃあ…
ワーク
渡したから…
これで…
…？

……!?
しっかり履き直させてくれなきゃ…
あなたの仕事でしょう?クロ田君…

え…こ…
この状態で…!?
ガヤ
ガヤ
ガヤ
いつまでも
突っ立っていたら
怪しまれるわよ?
た、確かにそうだけど…!
い…いいのか…
こんなこと…
ドッドッ
ドッドッ
グリ
ぐ…

か…会長の
太もも……
ギュ…
ズボン越しでも
わかる…
柔らかい…
あたたかい……っ

白田ーー!
取りに来ーい
うあいっ!?

――ッん…っ
!?
会長？ 何か言いました…？
カァァァァ…
……

生徒会室
お疲れ様でした
クロ田君
会長…
無茶が
多すぎるよ…
まさか毎回
こんなこと
させる気
なんですか…!?
ふふ
今回はクロ田君が
どこまでできるか
試してみたの
少し大変だったかも
しれないわね
ごめんなさい?
少しどころじゃ
ないですよ!
緊張でおかしく
なりそうだったし…
というか僕が
ワーク取りに
行かなかったら
どうするつもり
だったんです?

白田君のコト
信じていたから何も
考えてなかったわよ？
嘘くさ――!!
ドキ
逆に尋ねるけど…
白田君はどうして
助けてくれたの？
ズイ
ッ
相当
難しい状況だったし
仮にも下着は
履かせたあと
だったのに――
ドキ
ドキ
…いや…
それは……
自分でも…
何故だか…

もしかして——
私の下着を他の人には見せたくないって思った…
とか？
!!
…そ そうだった…のか…っ
わ わかりませ…
いや 違いますよ…
というか…だったら何なんです？
僕が思い通りに動いて満足…ってことですか

いいえ？
白田君が私を……
そういう風に思って
くれていたなら
嬉しい…
そう思っただけ
ま またそうやって
からかって…！
あら
本心よ？
クスクス
…あ

そういえば
会長
あの時――
!?
何か言ってた
気がするんだけど…
何て言って――
ピ

……

何も
言ってません
え？
でも…
言ってません

履いてください、
鷹峰さん
Haitekudasai Takaminesan

第3話
見たいか、見たくないか、
教えてほしいの。

全校生徒の憧れの的
生徒会長
鷹峰高嶺の秘密……
それは——
下着を脱ぐと
自分のした事を"しなかった事"にできる……
時を駆ける少女
であるということ…！
そして…その秘密を
知ってしまった僕…
白田孝志は…
会長にパンツを履かせる
"クローゼット"としての
生活を強いられる
こととなった——

キーンコーン
では
ここまで
あー
鷹峰
ワークを回収して
B棟の準備室まで
運んでくれ
はい
わかりました
ザワ
ザワ
会長！一人じゃ
重いでしょ…
手伝うよ
あ 俺も
ヒマだから！
ありがとう！
それじゃあ
お願いしようかしら
さすが会長…
すごい人望だなあ
頼んでもいないのに
助っ人が…
ガヤ
ガヤ

――と言いたいところだけれど
え⁉
クロ田君 あなた自分が何なのか――まだ理解できていないの？
ど どういう意味――
⁉
ガヤ
ガヤ
会長！ 一人じゃ重いでしょ手伝うよ！
っ！

な…会長
何を無かったことに!?
あ俺もヒマだから手伝うよ！
いやそれより…僕が何なのか理解していないって…どういう…

私のクローゼットになりなさい
常に私の下着を持ち付き従い——

こういうこととか!!
あっあのッ
僕が手伝います…っ!!

まったく…
クロ田君の教育のために
わざわざ脱いで
あげたのだから
感謝して
ほしいものね？
は はい…
すいません
要するに——
クローゼットである僕は
会長の着替えをサポート
するため いついかなる時も
会長の傍に控えて
いなければならない
それを再認識させるため
会長は他生徒の
手伝いの申し出を
受けなかった事にした——
という訳である

次回からは煩わせないで頂戴

さあ行きましょう

教育じゃなくて調教じゃないのか…これは…

サァ

皆から尊敬されて
愛され…誉めそやされて…
会長に生まれ変われたら
毎日苦労も無く楽しいんだろうなぁ…

ありがとう
でも一人で運べるから大丈夫よ
それより…
田中君
先週の練習試合強豪の栄高に勝ったそうじゃない
あッ
はい‼
今年の野球部は良いとこまで行くと思いますよ！
すごいじゃない期待しているわ
太田さんも剣道団体戦のメンバーに入れたんですって？
えッ知っててくれたんですか⁉
感動です！
…

化学準備室
よし――と
ピ
さて…確認よ鳥田君
私が個人行動する場合――
あなたはどうするのだったかしら？
CHEMISTRY
そっ率先して付いて行きます
はいよろしい
鳥以上の知能があって安心したわ
ああ…二人きりの時でも表の会長でいてくれたらなあ…

…
B棟は人が少ないけど…
さっきは大変だったね
大勢を相手にして

人を乱交モノAVに出演した風に言わないでくれるかしら?
出演するなら単体モノ! そしてAV界で1番を目指すに決まっているでしょう?
知りませんよ!!
というかそもそも出てません!!
行く先々で話しかけられるから
大変じゃないのかなって思って…

あれは私が優れた
生徒会長であるという
証明だもの

誇らしくこそあれ
煩わしく感じるなんて
あり得ないわ

だって
全校生徒が私のことを
生徒会長として顔も名前も憶えているでしょう？
一度見たら忘れることはできないでしょうけども…
まあ これ程美しく完成された人間――
は…はあ…
――としても
皆が私のことを記憶しているのに
会長である私が彼らの事を憶えていないなんて――
…そうか…会長は
皆の期待に応えるために――

負けた気がするじゃない
え!? そういう理由!?
ウ…ム…
そういうって…他にどんな理由があるのかしら?
い…いや…
…でも…そうか…
会長は誰からも好かれて尊敬されて…羨ましいと思ったけど…
きっと僕らの知らないところで
僕らの想像も及ばないような努力があったから
今の会長があるんだよな…

その熱意って――
何が会長を会長にしたんだろう――

――ちなみに全校生徒の氏名だけでなく 各々の簡単なプロフィールも憶えているわ
えっ すごい…！

もちろん―― 白田君のプロフィールもね
僕のも!?

白田孝志…17歳

埼玉県坂戸市出身…

性格は——

得意科目
特に無し
強いて挙げれば
国語…と言っても
平均点程度
交友関係も希薄で
昼食は主に一人で──
ちょちょちょちょ
ちょっと待った!!
わかった!!
わかったから!!
ピクッ
簡単なプロフィール
どころじゃないよ…
詳しすぎて耳が痛いよ
ホントに全校生徒の
プロフィール そこまで詳しく
憶えてるの…!?
──!
どういうことかしら

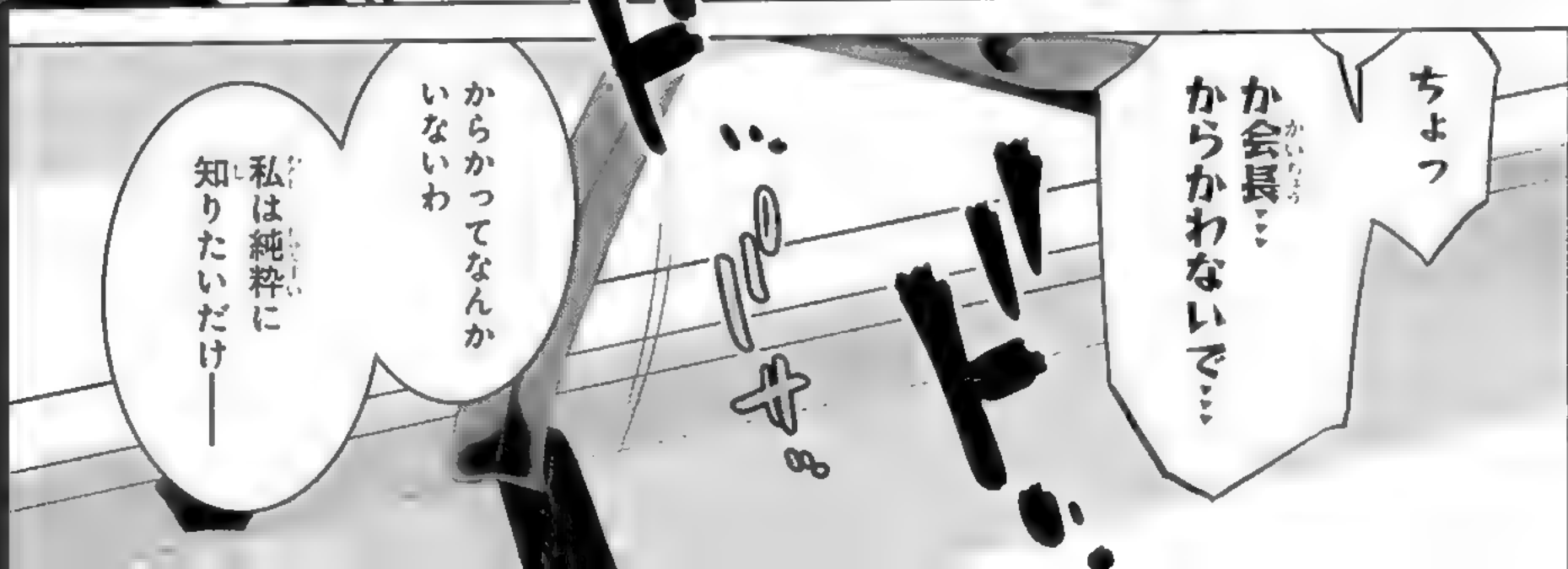
それはつまり私が白田君のことだけを詳しくリサーチしたと言いたいの？
思い上がりも甚だしいわね
ピキ
いいや そんなコトは…

むっつりスケベ
っ!?
カァッ
な…
そんなコト…
あら?
違うと言うの?

本当は着替えを覗くほど私の身体に興味津々なのに
見ようとしないじゃない…？
いざ公認で見られる立場になると
いっ…いや…それは…会長が
見られたらイヤだろうと思って……
ドキ
ドキ
…そう——

ドドッ
ッ!?
わ…っ
ヤ
ったた…
かっ会長…!?
何…を…

それなら私が見られてもいい…と
言ったらどうするの？
〜〜〜っ!?
…いえ違うわね
これだとまた〝言い訳〟されてしまう…

・・・・・見てほしいの
白田君に・・・
──そう言ったらどうするの・・・？
──っ？
ドッ
ちょっ
か会長・・・からかわないで・・・
からかってなんかいないわ
私は純粋に知りたいだけ──
ドド・・・
ごーーーっ・・・

聞かせて頂戴
正直な気持ちを

言ったら……っ

ドド…
ドド…
――っ…
ドド…
ドド…

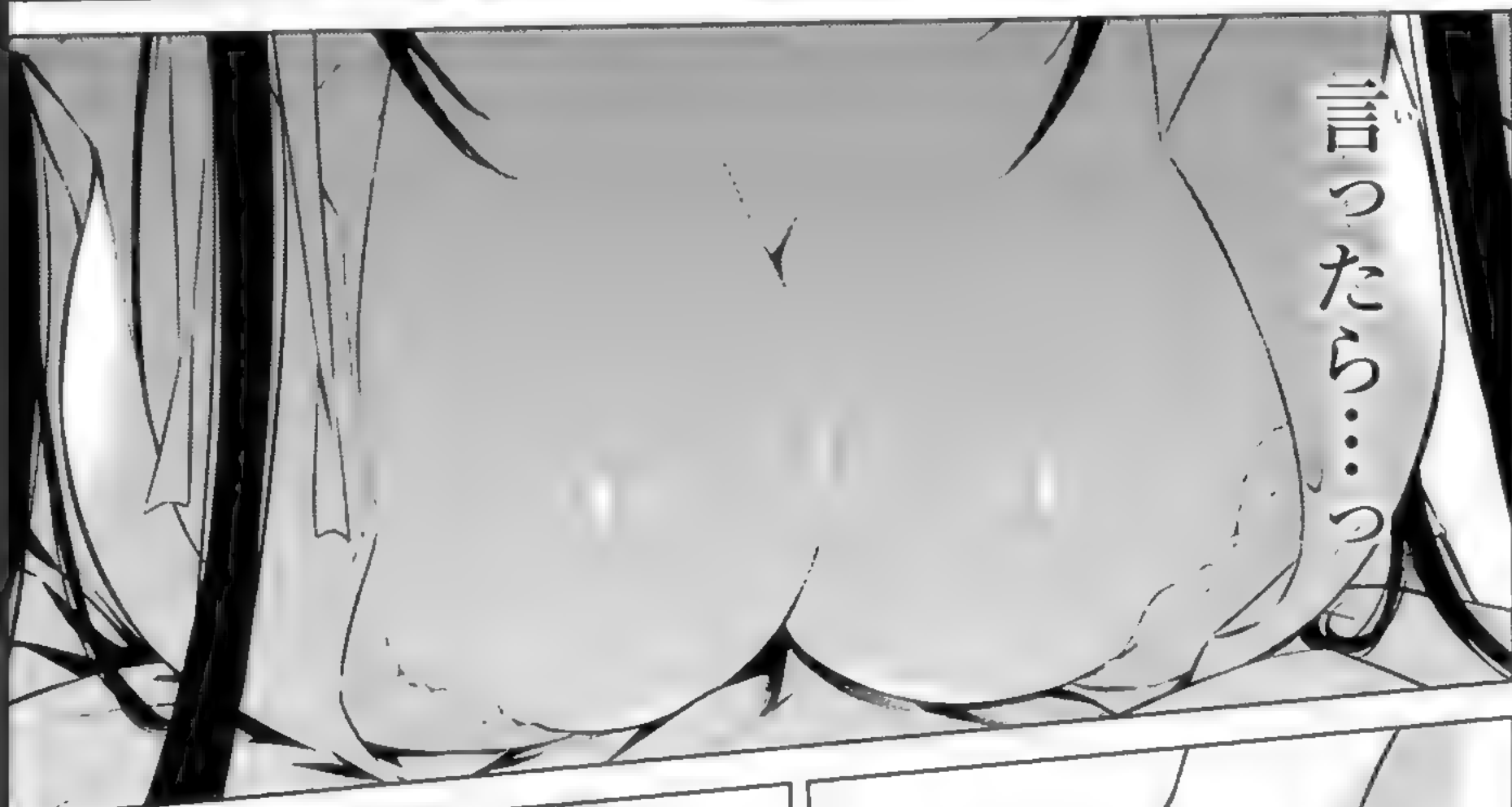
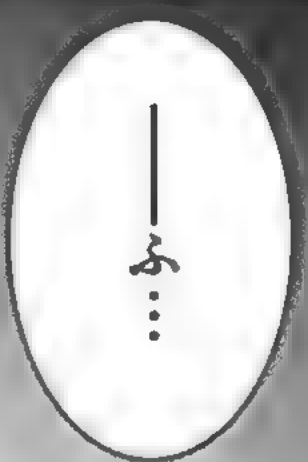
そッそ
そういうコトは
っ…っ
付き合ってからじゃ
ないと…!!
──ふ…

あははは っ

…へ!?

ふふ ごめんなさいね
予想しなかった
答えだったから

さ 冗談は
これくらいにして
戻りましょうか?

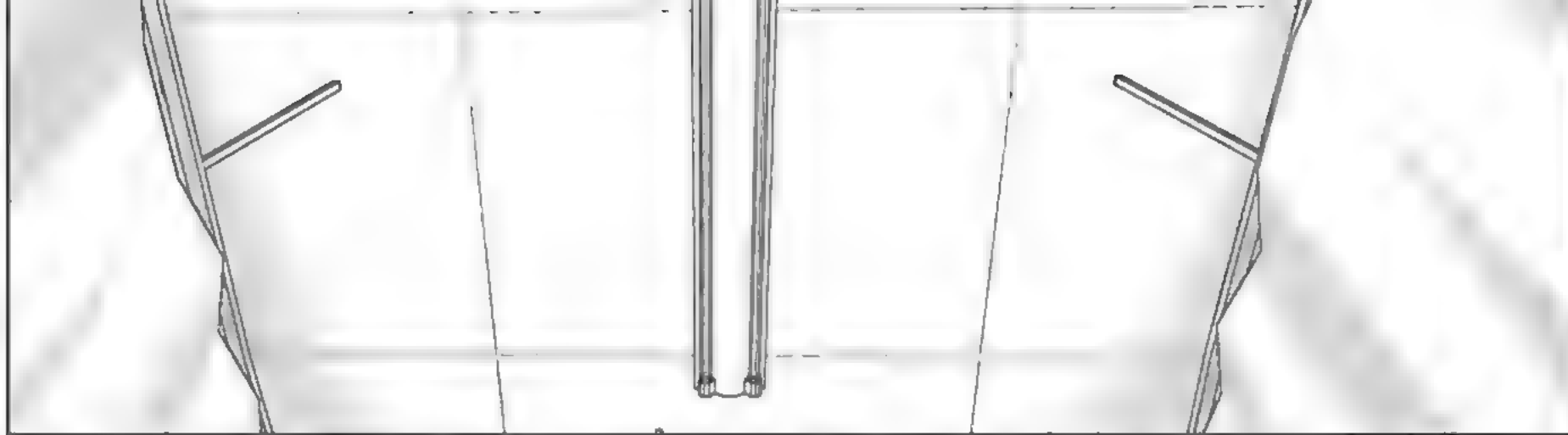
え!?
冗談…!?

そうよ? 白田君の
本音が聞きたかったのは
本当だけど

こんな所で本気で迫る訳
ないでしょう?
それじゃあ痴女じゃない

いや線引きわかんねー!!

あなた私と
付き合えるかも
しれない…と
そう考えていると
理解していいの
かしら？
ドッ
ーーっ！
いいいやッ
そんな滅相も
無いッ!!
トッ
何と言うか
言葉のあや？
と言うか…

そんなに慌てて否定しないで？
・・・その答え悪くはないもの
──私にとってはね
…え？あ あの
それってどういう意…
わあッ
みッ
え！？
し 白田君！？白田君！！

…ん…
よかった…
気が付いた？
っ!?

え…!? あれっ ここは…!?

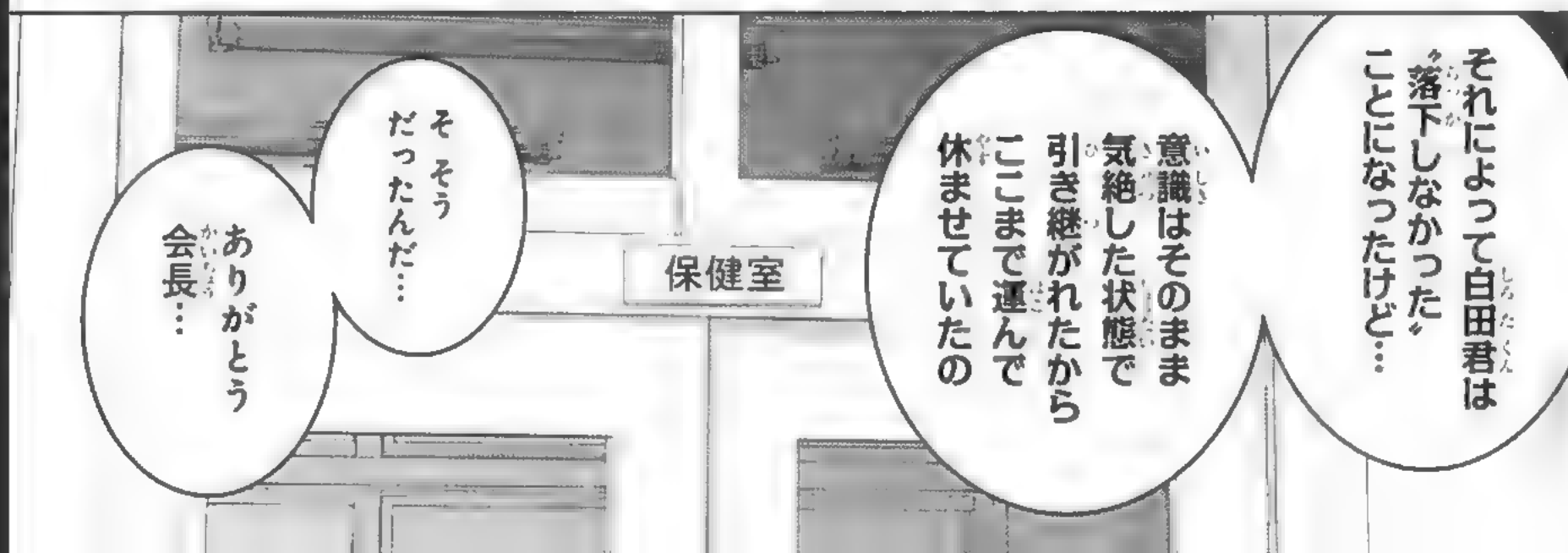
落ち着いて ここは保健室よ

記憶ははっきりしている?

え…と確か階段を踏み外して…

そう そして階下に転げ落ちて…頭を打ったのだけど

何と言うか…そのかなりマズイ感じだったから…能力で白田君を〝からかわなかった〟ことにしたの

かなりマズイ感じに落下

能力で無かったことに

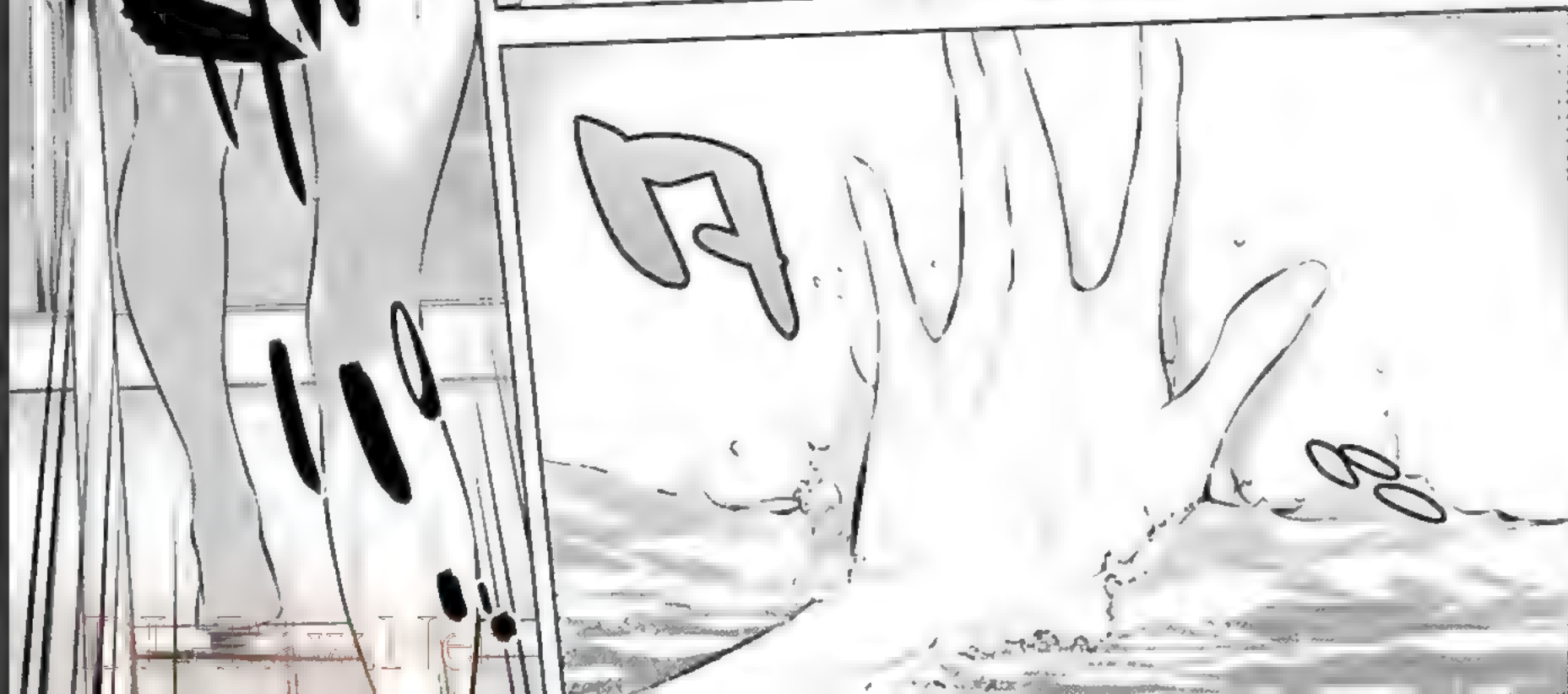
か…かなりマズイ感じって…!?

そういう事だから…
休み時間が終わるまで
もう少し安静にしていなさい
っ！
〜〜〜〜…！！

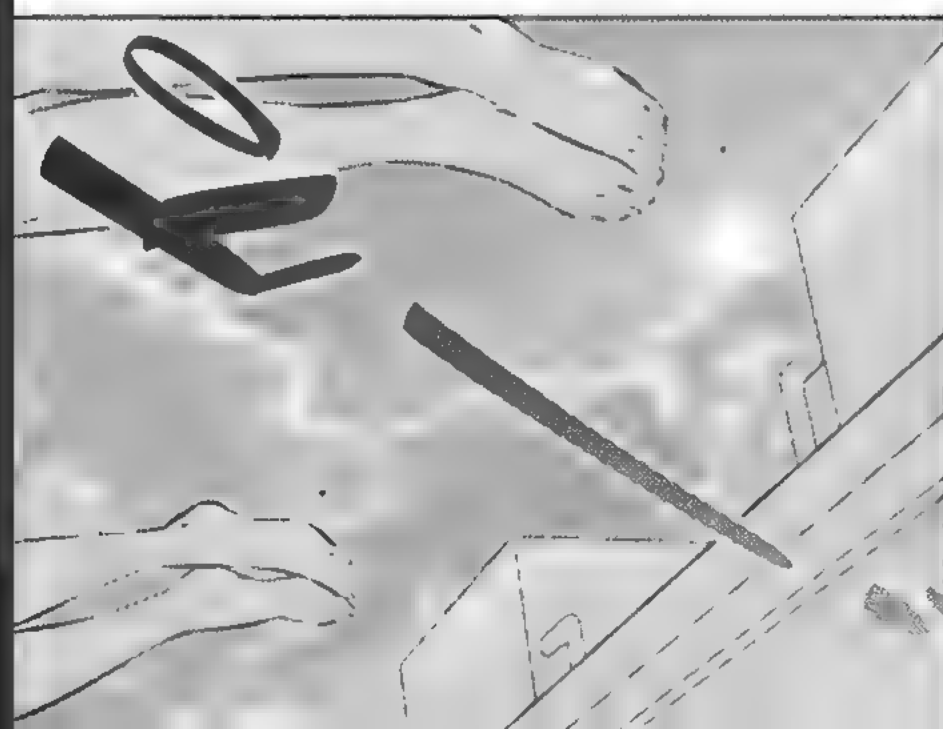
童貞こじらせチキンえせ紳士

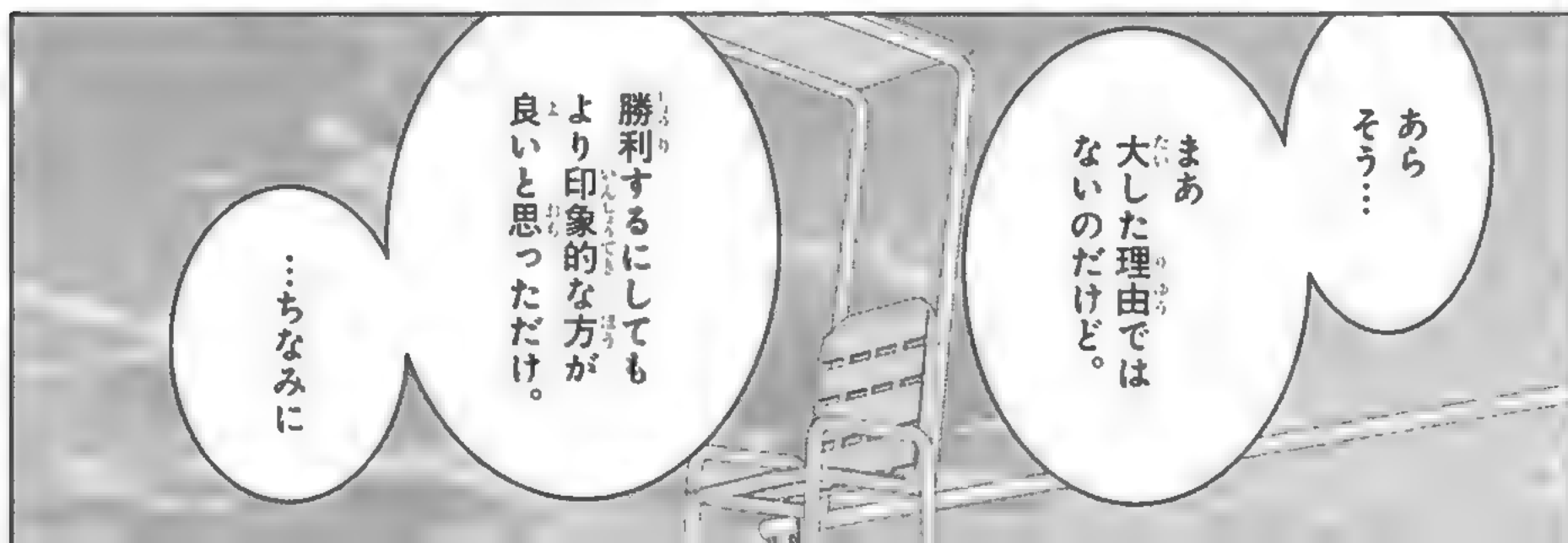
罵詈雑言!!

馬鹿みたいに真面目な人

ザザ
第4話 ちゃんと口にして欲しいの。
ア
おおっ
ザザ
ム

水泳部エースの大江に勝ったぞ!!
会長すげえ――!!
ザワ
ザワ
大江って…強化選手か何かで海外合宿とかしてたよな…!?
俺の大胸筋がぁー!?
ザワ
野試合とはいえそれに勝っちゃうって…
……

会長…やっぱり完璧すぎる…
やり直すわ
あれ—!?
ミーーン
ミン
ミン
ジィーーー…
位置についてー
ヨーイ…

あ…あれ？
何で…
背泳ぎ…？

でも…こうやって
改めて見ると…
会長の身体って
ドキ
ドキ
ドキ
本当にキレイだ…
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
や…やばい…
凝視してたの…
ばれ…
——!!
ドッ
ドッ
ドッ
おおっ!!
水泳部エースの
大江に勝ったぞ!!
会長
すげえ
——!!

白田君
ミン
ドキン
！
ミン
ミン
普段なら「どうしてやり直したの？」と聞きたげにするのに…
今日は静かなのね？
いッいや… 別に
き 聞くタイミングが無かった…だけで

白田君にとって
どちらの方が
印象的
だったかしら——?
!
や…やばい…!!
何て答えれば…
ドッ
ドッ
正直に2回目って
言ったら…会長の
身体に見惚れてたって
白状するような
ものだし…!
どどうすれば…!!
ドッ
ドッ
クス…

目は口ほどに——
とは言うけれど
まったく——
背中で
ものを言う人は
初めて見たわ
本当に
エッチなのね？
白田君
っ!!
ギクッ…
う…あ…
え…ええとッ
そうだッ
そ それより…！
ドギマギ
と…どうやって
やり直したんです…!?
下着着けて
ないのに…！

あら…白田君の想像力は…
エッチなコトにしか使われないのかしら
——まあでも
特別に一臂の力を貸してあげるわ
ヒント
上半身
!!
上半……身……

こ…この片側だけの突起……もしかして…
ニ…ニプレス…っていうヤツ…!?
あら? どうしたの白田君 前屈みになっているようだけど?
い…いや別に…!
そこまでして やり直しますか!? などとツッこむ余裕は この時僕に あるはずもなかった

履いてください、鷹峰さん

Haitekudasa Takaminesan

第5話 ありがとう

僕は…
白田孝志は
生徒会長
鷹峰高嶺の

クローゼットである

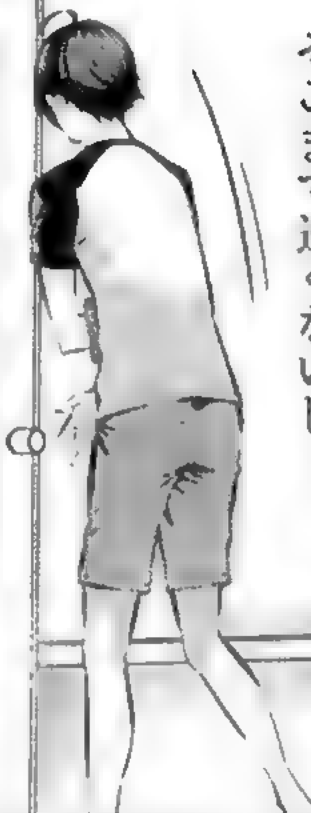
lex & Murpl
NEW YORK

しまった…

会長の下着返しそびれてしまった…

そういえば…
ポーチの中身って
ちゃんと見たこと
ないんだよな…
……
ドキ
この中に…
会長が身に着ける
はずだった
下着が……
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ジ…

ヴィーーッ
ドキィッ
こんばんは白田君
あなた下着を持ち帰っていない？
あッすすいません！明日学校で返します…！
これからランニングに出ようかと思っていたのだけど
白田君が持ち帰ってしまったポーチに運動用の下着が入っていたようなの
白田君
？はい
生憎その下着1セットしか持っていないのよね…
ブーッ
つまり持って来いと…？
切れた…

まあいいか…会長の家
そこまで遠くないし…

…いや…待て……！
これ…クローゼットとして主の意図を
汲んで動くかどうかの
テストでは……!?

クローゼットの
義務は着替えの
サポート…
しかし会長は
自宅にいる訳で
着替えの手伝いが
必要なワケでは
ない…
下着だって
他のもので代用
できる……
これで動いたら
只の使いっ走り
じゃないか…!?

僕はクローゼットで
あってでも
パシリではない!!
よって下着は届けない!!
この時 僕は
頑なに極小のプライドを
守ろうとしていた

20:15
LIME
会長が
画像を送信しました。
ポンッ
!

!?

こ…これ…ノーブラ…!?

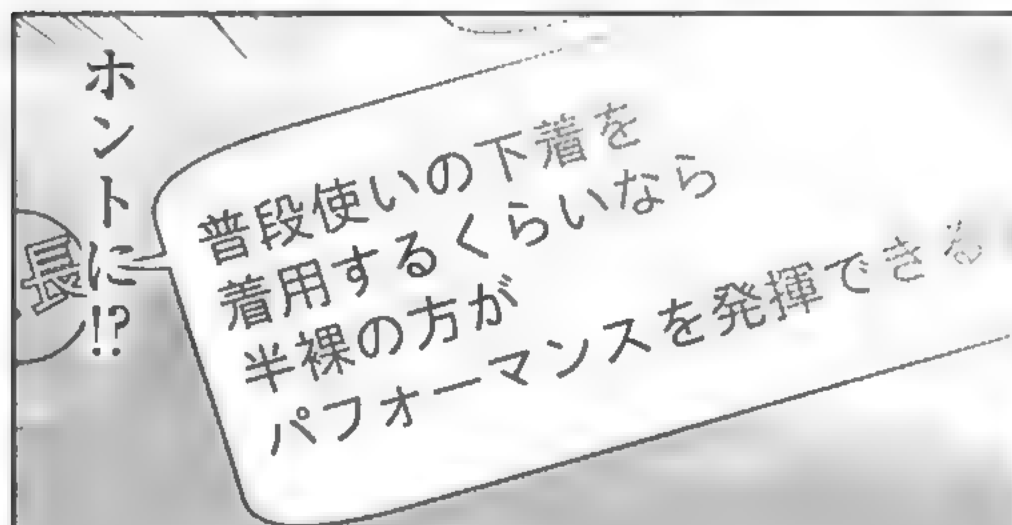
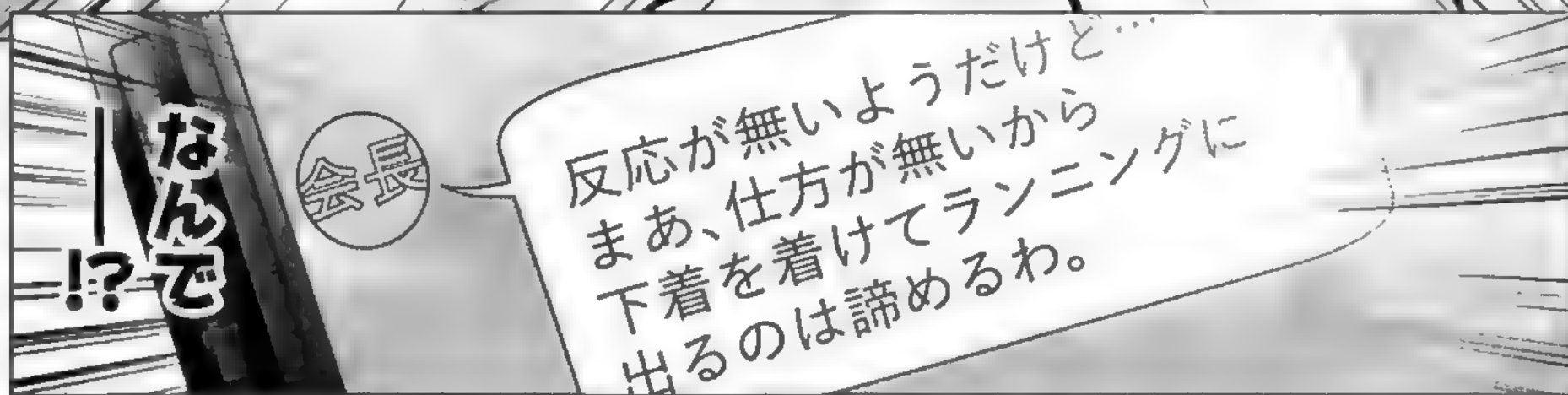
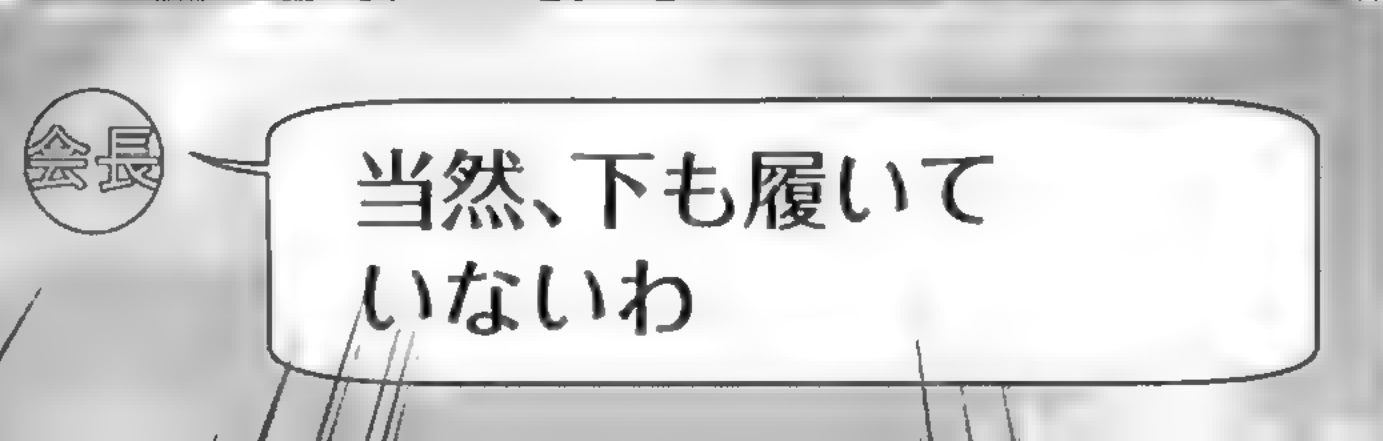
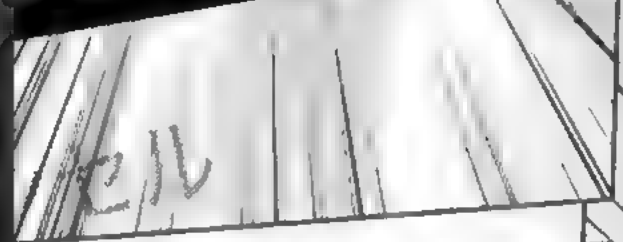
反応が無いようだけど… まあ、仕方が無いから 下着を着けてランニングに 出るのは諦めるわ。

なんで――!?

ポ
わあ——っ!!?
写真を保存
いややってる場合かバカ!!
これ…止めに行った方がいいんじゃ…!?
ポ
会長
当然、下も履いていないわ

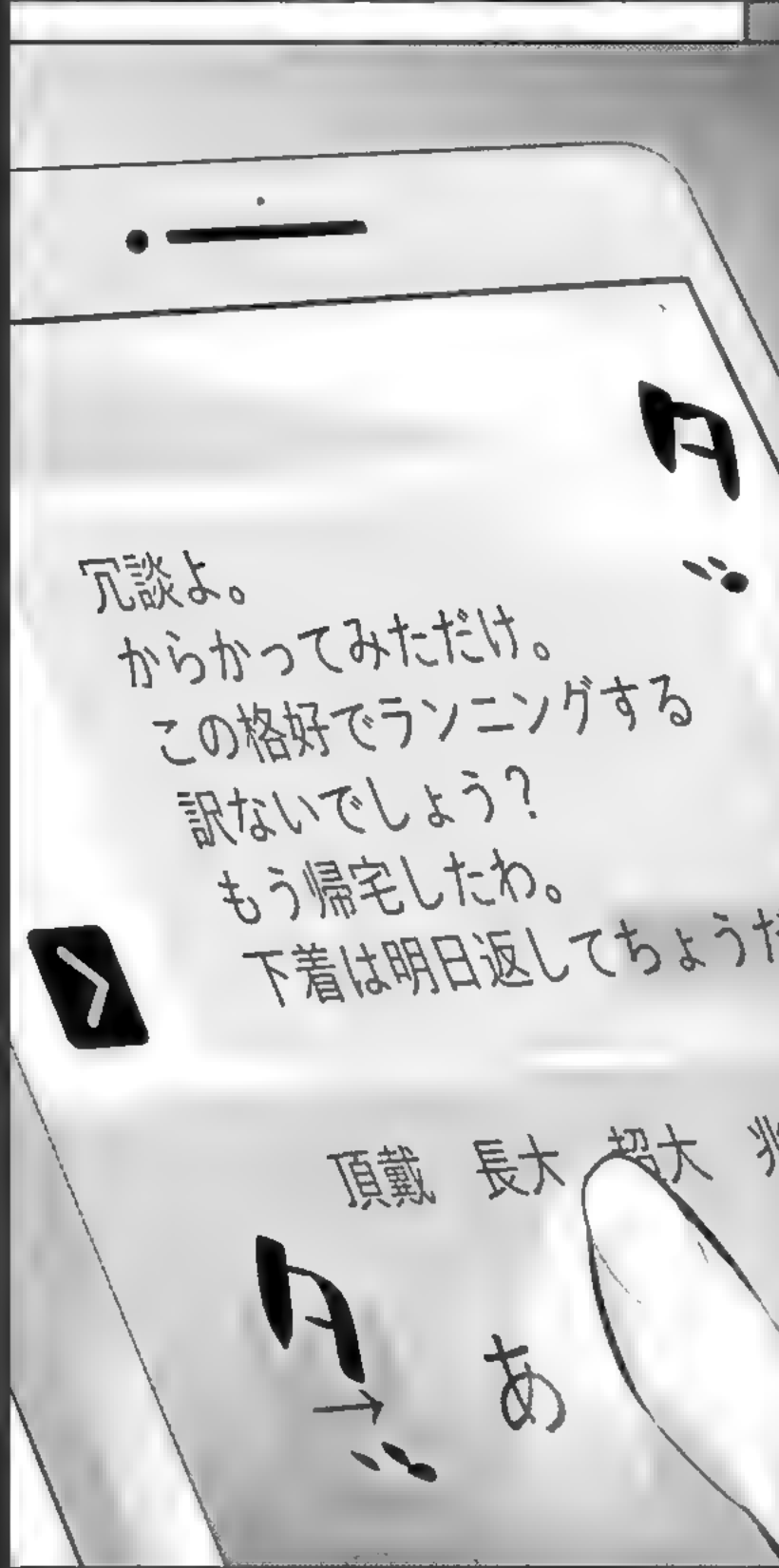
外出てる――!!

会長
歩きスマホでは無いから安心して(一時停止して撮影しています)。

そこ心配してないです!!

い…いや落ち着け！
これも会長の策かもしれない！
動揺させて操るつもりだ…！
…反応しなければ
諦めて帰宅するはず…
ぐぬぬ…
いやいや走る気満々だこの人!!

というかこれ…背景に
人映ってないか…!?
場所は…近所の公園…!?
夜にこんな格好で運動してたら…
まさかって事も…

…って心配する必要無いか…
並大抵の相手なら返り討ちにしちゃうだろうし
万が一の事態になっても
〝無かった事〟にしちゃえば――

ウロ
ウロ
………
ストン

冗談よ。
からかってみただけ。
この格好でランニングする
訳ないでしょう？
もう帰宅したわ。
下着は明日返してちょうだ
頂戴 長大 超大
あ
ふ…
は明日返して頂戴
キャンセル
送信
ス…
!
会長っ！

すすいません
これ…
ザー
バッ

遅いわよ
・・・のろ田君
のろ田!?
剣突を食らわせて
あげたいところ
だけれど…
まあ 命令されずとも
下着を持って来たことは
評価しましょう
クローゼットとして
主の望みを
汲んで行動できる
ようになった
ということよね?
い…いや
違いますよ
違う?

下着を着けずに出歩いて…

何かあったら

〝無かったこと〟にできないじゃないですか

…成程ね？

つまり白田君は…

私が暴漢に犯されるのを想像してNTR属性が目覚めそうになったのが怖くなって駆けつけた…

という訳ね

どうしたらそういう解釈になるんですか!?

あら
そう…
心配？
あ…
いや
白田君が私の
ことを…心配…？
ふうん…？
…!?
あ…っ
もしかして怒らせた…!?
クローゼットごときが
心配？
あなたは
自由意志など
棄てて私の思うように
動けばいいのよ
みたいな感じで…!?

ありがとう
ドキッ
まあ――
でも今は気分が良いから…
もう一度言ってあげる
……――
心配してくれて
ありがとう
……え……?
あら…
聞こえなかった?
耳まで悪くなってしまったの?

嬉しいわ
白田君

でも少し驚いたわ
……あの白田君が格好良いコト言うんだもの
――っ
まあ確かに――
完璧な私を心配できる人間なんて
世界中探しても私の〝秘密〟を知っている白田君くらいしかいないものね
存在価値の乏しい白田君には身に余る光栄でしょう？
急にすごい悪口!?
ファサッ
――……でもそうか……当然だけど

会長の〝秘密〟を知っている
僕だけが

してあげられること…
っていうのがあるんだよな

…って…
どうして
何かしてあげたい
なんて考えてるんだ…？

今後とも
たくさん心配をかけていいのかしら？
っ
で…できれば…お手柔らかに…
それじゃあ これ 返してもらうわね
あと どうぞ…

──もしくは…下着をいかがわしいコトに使ったから温かい…とか

は!?

いや使ってないですよ!?

本当？

例えば何かに巻き付けて扱い…

やってないですって!!

思えばこの時 既に僕は会長から目が離せなくなっていたんだ──

かわせみ公園

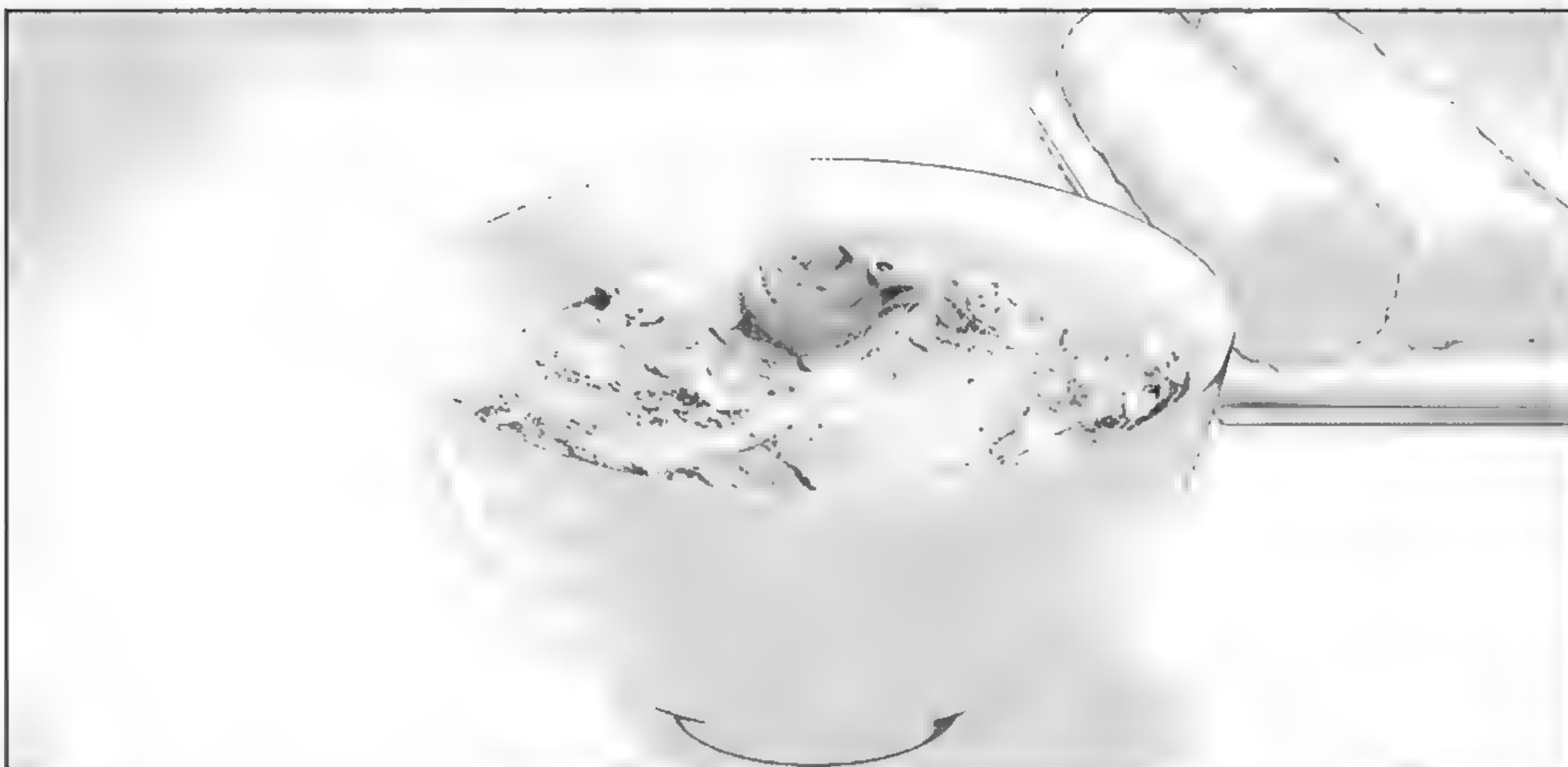
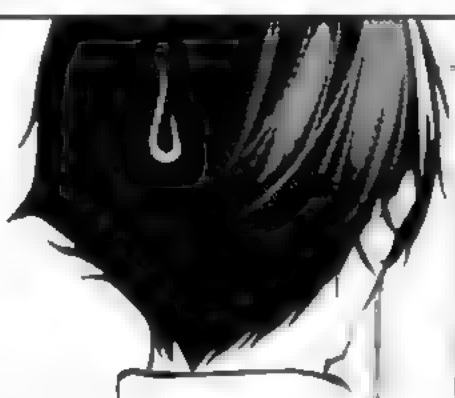
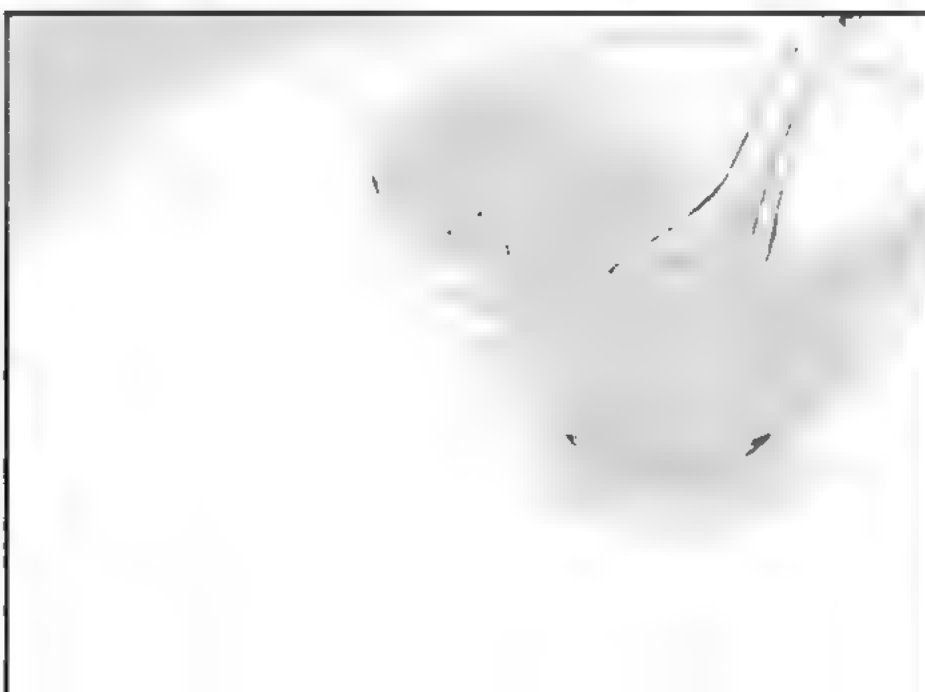
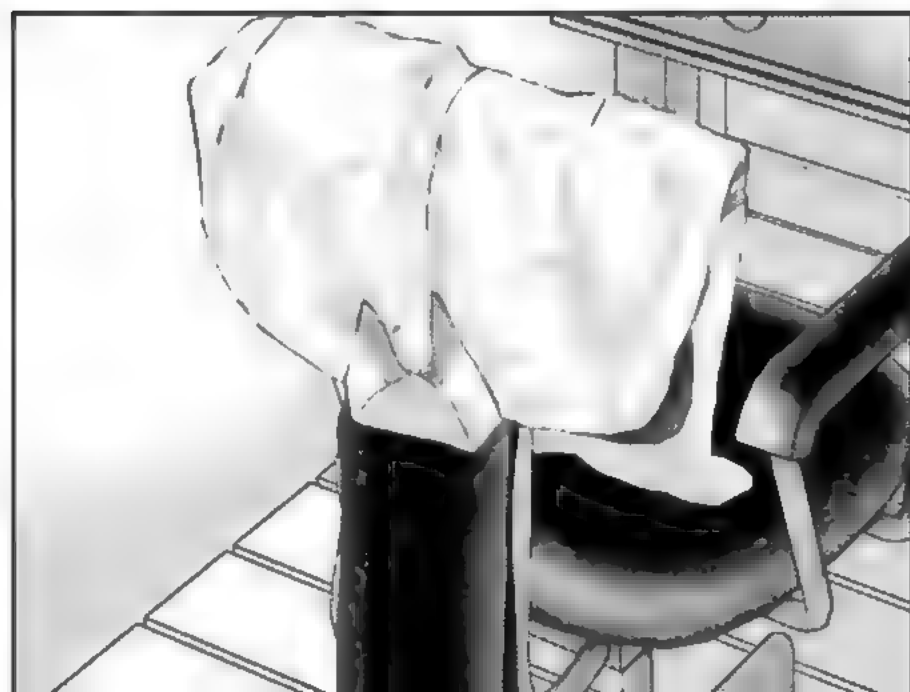
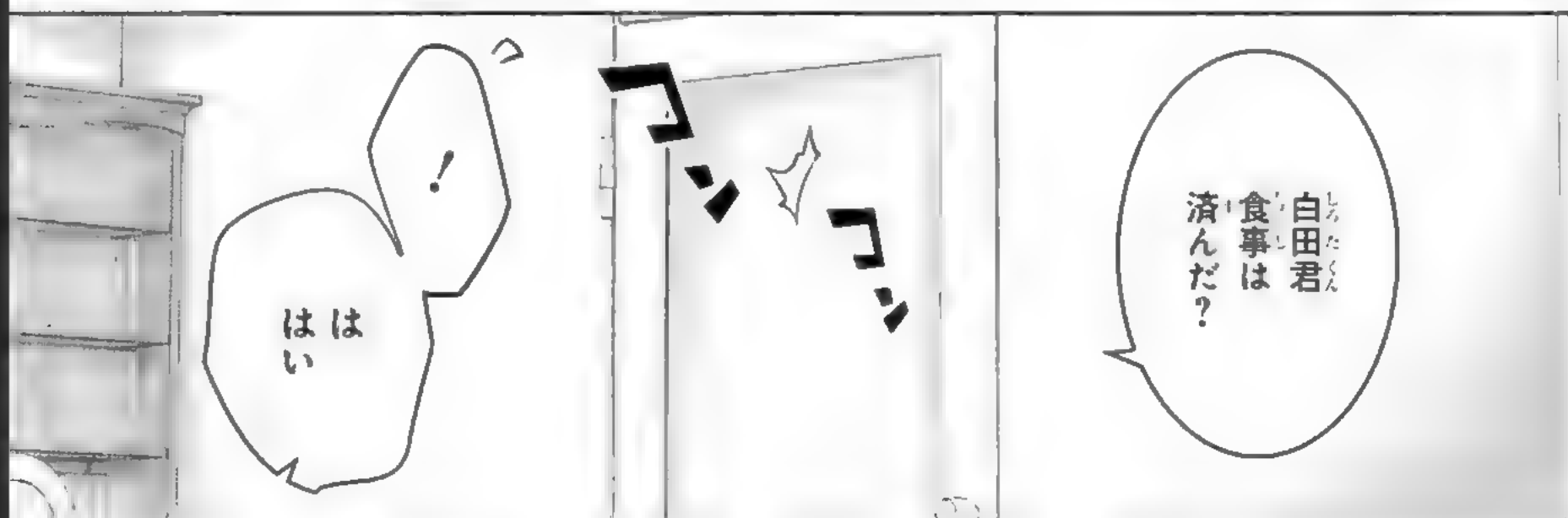
へえ
意外と小綺麗にしているのね？
感心したわ
白田君
第6話
ドン感しないで、ビン感して。
学園の神にしてクローゼットの主である会長が――
なぜ僕の部屋にいるのかというと――
風邪が悪化し熱を出した僕に
家が近所ということで付き添って下校してくれたのだ…が――
ど…どうも…
なぜ部屋にまで…？

いかがわしいフォルダが開きっぱなしになっていて期せずして白田君の特殊な性癖を知ってしまったりするんじゃないかと思ったのに
カチカチ…
でエッチなフォルダはどこに隠してあるのかしら？
わああ!?ちょちょちょっと!!
部屋を漁るために上がったんですか!?
クローゼットの管理維持のためよ
クロ田君が壊れてしまったら私の生活にも支障が出るでしょう
本格的に廃品になってしまう前にメンテナンス…もとい看病してあげようと思って
廃品…
そんな訳ないでしょう
午前授業だったからお腹が空いているでしょう？作ってあげるわ
えっ いやっ そんな…悪いよ
あら？この世に遠慮をするクローゼットがあるかしら（反語）

それじゃ…調理中は裸エプロンでいいかしら？
はははい!?
なんならその格好のまま食べさせてあげてもいいわよ
そうして食べ終えたら
汗をかいてしまうでしょうから…

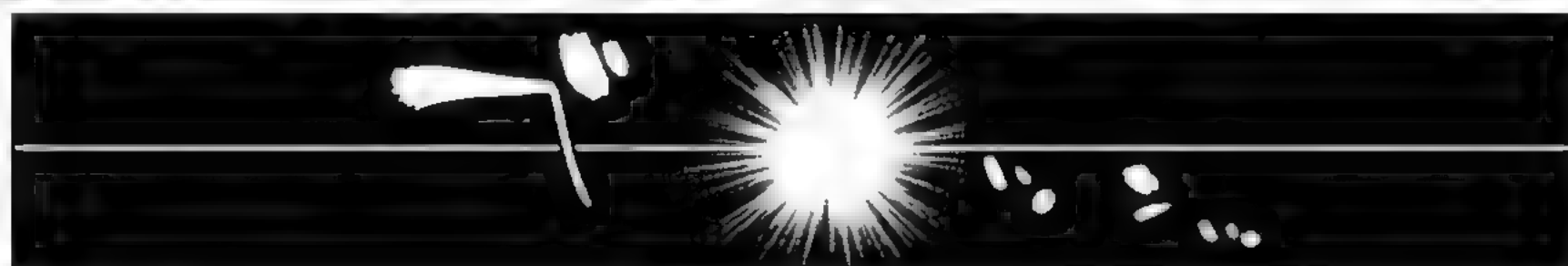
全身を蒸しタオルで優しく拭いてあげるわ
お好みなら裸エプロンのままで
〜〜〜〜っ!?
そうして眠ればすぐ元気になるわ
ああ…その前に別のトコロが元気になってしまうかもしれないけれど
……
こ…こんな時にまでからかわないで下さいよ…！
え？

別のところが元気にってオッサンですかあなたは！
身の回りは自分でできますから
風邪が伝染るといけないいしもう帰って下さい！
…そうね…白田君の言う通りね
やり直すわ
ユッ
!?

白田君
！

冷蔵庫の食材とエプロン 勝手に使わせてもらったわ
それと蒸しタオル一応ラップで包んであるけど
冷めてしまったら温め直すから言って頂戴
え あ…はい
私は洗い物とか雑事をしているから
白田君が食事を済ませた頃に一度様子を見に来るわね
パタン
もしかして――からかったのを〝無かったこと〟にした…のかな…？
…！おじや美味しい…
カチャ
カチャ

どうして悪戯っぽく
からかったかと思えば
…優しくしたり
するんだろう
嬉しいわ
聞かせて頂戴
正直な気持ちを

僕がクローゼットとして
よく働くように…
という駆け引き――
白田君食事は済んだ？
コンコン
！
は はい
ご飯はどうだった？
口に合ったかしら
カチャ
あ はい
美味しかったです
所謂…

——そう

よかった

飴と鞭の使い分け
——なのだろうか

!?
なッ何してるんです!?
添い寝よ
え――!?
発熱した時は体温を高く保つことが肝要でしょう?
いっいやだからって
…ああ
そういう事…

今日の体育の授業
〝頑張らなかった〟
ことにしたわ
もともと制汗剤は
使っていたけど…これで
汗の匂いはしなくなった
はずよ
そこは
気にして
ないですよ!!
あ…
ごめんなさい
もしかして もっと
汗臭い方が
良かった…?
そういう問題でも
なく!!
またそうやって
からかって
やめて下さい…!
一人で
眠れますから…!

からかってなんか
いないわ
ゴッ
クローゼットの
持ち主として必要な
コトをしているだけ
ドクン…
私のことは
大きい湯たんぽ
くらいに思って
くれればいいわ
ドッ
モゾ…
そんなコト言われたって…
ドキドキ

僕の背中にいるのは――
制服一枚を越したら
ブラもパンツも着けていない
学園一の美少女で…
意識するな なんて…
無理に決まっている…！
僕が変な気を起こしたら
どうするんですか!?
それも込みで
からかっているんですか…!?
僕にはわかりません
会長が何を
考えているのか…！
ドキンドキンドキンドキンドキン

ああ…
その前に
一つ言いたい
ことがあるの
さっきは
少し…
悪戯が過ぎた…
かもしれないわ
白田君の
体調に関しても
思慮に欠けていた…
可能性も…
だから…その…
ごめんなさい…
……
え?

っ!?
なッ
何を…
オキシトシンよ
肌を合わせるとオキシトシンが分泌されてリラックスできるの
これで入眠し易くなるでしょう
…私がここまでしてあげているのだから
余計なコトは考えず
さっさと眠ることね

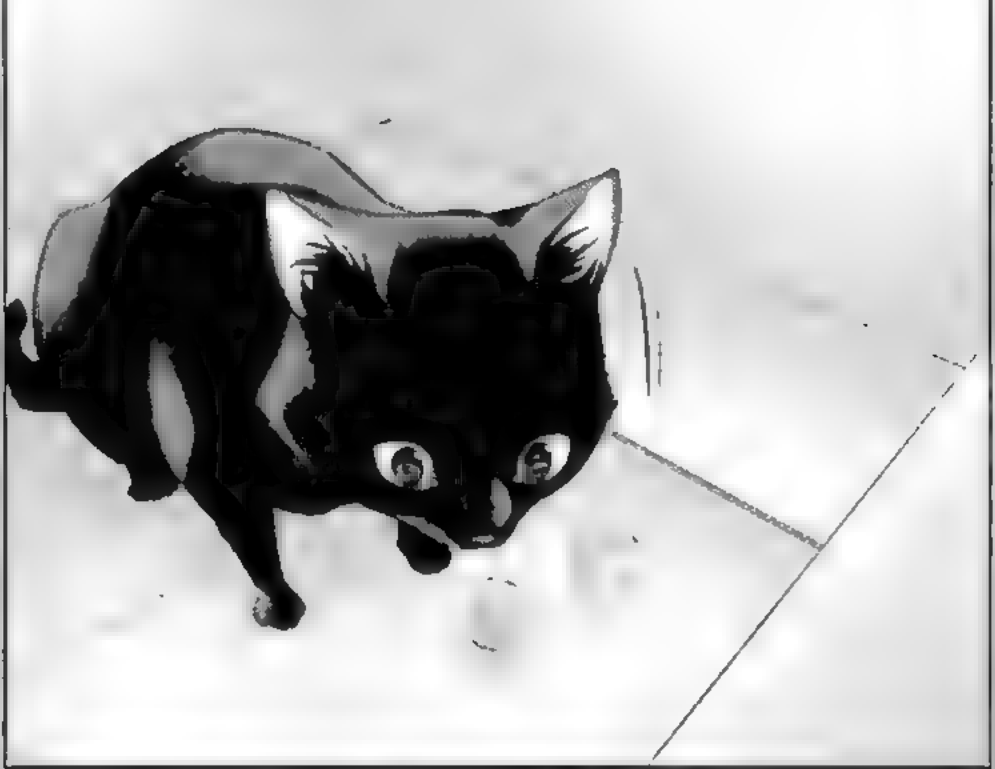
さもないと
粗大ゴミとして
回収させるわ
その言葉は
いつもの会長らしい――
クローゼットの主然とした
ものだった――けれど

そう考えた時——

学園の神でクローゼットの
主である会長が——

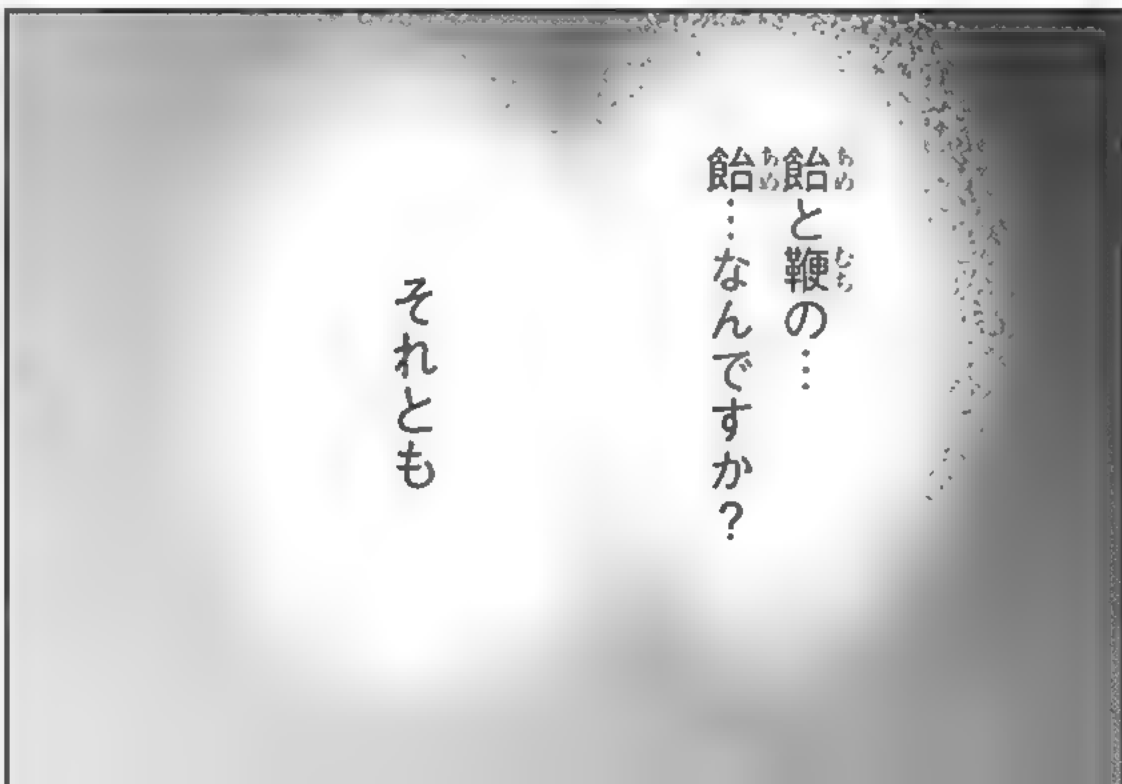
鷹峰高嶺という
ひとりの女の子であると…
そう感じられた

寝られそうかしら
白田君…
…
はい……
会長…
一つ…聞いても……
?
何かしら?

会長が優しくしてくれるのは…
飴と鞭の…飴…なんですか?
それとも…少しでも…好意が…
…っそれは——…
——…
…白田君はどちらなら嬉しい…?
ドキ
ドキ
ドキ

…
白田君…？

おやすみなさい
白田君
DL-Raw.Net

す
す

SPACE
ZOMBIE

飴と鞭の…
飴…なんですか？
それとも

履いてください、鷹峰さん 1

おわり

# あとがき

この度は「鷹峰さん」第一巻をお手に取っていただき
ありがとうございます！
たくさんの方々のお力添えあって形になった一冊で、
感慨深いものがあると同時にかなり自分好みで
自由に描かせて頂いた部分も多く、
大丈夫かな…と気を揉んでもいます。

本作品の連載が始まってから現在に至る半年間、
私生活に嬉しい変化が起き、
それに伴って環境の変化に慌ただしくすることも
多かったのですが
アシスタントさんや編集の方々のご助力もあって、
なんとかやってこれました。

毎回クオリティの高い背景を描いてくださる
アシスタントの皆様、お読みいただいた
読者の皆様、本当にありがとうございます！
感想を送っていただけることもあり、
励みになっています。
それと担当Ｙ本さんと進行のＫ内さんをはじめ
ガンガンJOKER編集部の皆様、
毎回〆切ぶっちぎってホントすいません!!

それでは、また２巻でお会いできれば嬉しいです！

柊裕一

Special Thanks

橋井様　片桐様
須藤様　森本様
担当編集湯本様、
並びに編集部の皆様

&YOU!!

次巻予告

な――!?

パ…ッ

haite kudasai takamine san

鷹峰さんのクローゼットとして生活することになった白田くん。

すぐパンツを履かせるためにいつも一緒にいるわけですが

どうせ履かせるなら自分で選んだものの方が履かせ甲斐があるというものでしょう?

何ですか履かせ甲斐って!?

あら? どうして恥ずかしがっているのかしら?

命令の下なら理性的にこなせる白田君?

う…

知らなかった鷹峰さんの色んな面が見えてきて…。

# 履いてください、鷹峰さん②

売予定!

※単行本発売時のまま収録しています。

デジタル版　Ver.1.00

ガンガンコミックスJOKER

# 履いてください、鷹峰さん

**1**

2019年９月21日　Ver.1.00発行

著者
柊裕一

EXTRA CONTENTS ‼ カバー折り返し

※コミックス発売時のカバー折り返しを収録

EXTRA CONTENTS ‼ 表紙 表

※コミックス発売時の表紙 表を収録

## EXTRA CONTENTS ‼ 表紙 裏

※コミックス発売時の表紙 裏を収録

## EXTRA CONTENTS ‼ カバー裏

※コミックス発売時のカバー裏を収録